

HILLS AREA MAGAZINE

# HILLS LIFE

# 103

OCTOBER  
2020



草間彌生

李禹煥

宮島達男

村上隆

奈良美智

杉本博司



好評開催中!

[会場]

森美術館

六本木ヒルズ森タワー53階

[会期]

2021年1月3日まで

# STARS展

現代美術のスターたち  
—日本から世界へ

SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD

## 六つの輝ける星

# STARS展： 現代美術のスターたち —日本から世界へ

現在森美術館で開催中の「STARS展」には、世界のアートシーンで認められた日本の現代美術の巨星6人が揃いました。今一番知っておくべき芸術家たちがどのようにデビューし、今日の評価を得るに至ったのか？ その足跡をダイジェストに捉えながら、各人の代表作を一挙にまとめて見られるゴージャスな展覧会は必見です！

世界の現代アートシーンの中で、日本のアーティストたちをアスリートに例えたとしたら、どれくらいのランキングにいるのだろうか？

結論から言うと、かなり上位だ。国内外の有名美術館で彼らは大規模個展をし、海外の第一級のオークションで作品は高値で落札されている。

現在、森美術館で開催中の「STARS展：現代美術のスターたち—日本から世界へ」は、日本という枠を越えて広く活動し、高い評価を得ているアーティスト6名を集めたドリーム展覧会だ。

そのアーティストの中でも村上隆は常に世界的視野で活動し、伝統的日本美術からマンガやアニメまで、その描写を深く掘り下げ、表現に取り入れ、日本発信を意識してきた。同時に「スーパーフラット」という独自の理論の構築や提唱においても成功した彼にインタビューの機会を得た。

村上はこの「STARS展」では最初に登場するアーティストだ。広い展示室に足を踏み入れ、視界が一気に開けるその前に、美少女ウェイトレスの等身大立体フィギュア《Ko<sup>2</sup>ちゃん（プロジェクトKo<sup>2</sup>）》が迎えてくれる。

「日本から世界」に発信する人の「初期代表作と最新作を展示」するのがこの展覧会。村上の初期代表作の一つとしてKo<sup>2</sup>ちゃんが登場する。

美少女フィギュアを等身大にしたものがなんでアートなの？ というありがちな疑問を持ちつつ、展示室に進むと一転、視線は高いところに引っ張られ、そんな疑問やKo<sup>2</sup>ちゃんの印象はいったんすっ飛ばす。高さ5m、ディテールまで精密な形をしていて、美というよりは醜、色も念入りに塗られている赤鬼と青鬼に睨まれ、圧倒される。作品名は《阿像》と《吽像》。なんとという展開。「当初考えていた展示プランは、お花の絵が会場を取り囲んでいて、その中にデビュー直後のフィギュア作品数点があるだけのシンプルなものでした。しかしコロナ禍の発生で、オリンピックが延期になり、外国からのお客様がいらっしゃらない、となったので、急速、日本人々へのメッセージに切り替えたのです。『悪霊退散！』と『阿吽』の鬼の立体も、持ってきました」

結果、大成功している。鬼の奥には初期フィギュア作品《ヒロポン》《マイ・ロンサム・カウボーイ》も展示している。阿吽の鬼とそれら初期作は16～17年の時間の隔たりがあるが、その完成度の違いがありありと見える。鬼の眼はこちらを金縛りにするほど強烈だし、鼻毛もピンピンに立っていて、しかもそれは金色。肌の弛みや筋肉もまた、こちらの眼を釘付けにする。

「手塚治虫『火の鳥 鳳凰編』を、最近再読しました。大仏建立の背景に疫病、旱魃、飢饉、大地震、戦争があって、それで大仏を作って世の中を鎮めようとした時代と、その場に生きる芸術家たちのカオスと宿命を描いた物語で、その文脈で、会場構成をし直したのです」

この展覧会ではそれぞれのアーティストの作品があり、これまでの展覧会の図録など活動歴や、ときに制作の発想などに関連するものも展示されている。村上の場合、美術史家の辻惟雄の名著『奇想の系譜』の初版本を展示していた。『奇想の系譜』は日本の絵画史でそれまで異端、傍流とされていたものに焦点をあて、むしろそこに日本の絵画の本質や奥深さが見えるというもので、岩佐又兵衛、伊藤若冲、曾我蕭白、狩野山雪ら現代では最も人気のある絵師たちを取り上げている。

村上の作品は日本美術を下敷きにしていくものが多く、阿吽の鬼も、いかにも曾我蕭白の作風を彷彿とさせる形相をたたえている。「辻先生は『岩波日本美術の流れ』の中で日本美術とマンガの関連について触れられており、デビュー直後、方向性に悩んでいた僕に啓示を与えてくれました。つまり、アニメの中にある奇妙なフォームも、歴史が積み上がることで美



シグネチャーモチーフのお花《ポップアップフラワー》を背に。

術史に変容可能なんだよ、というメッセージを頂きました。なので、伊藤若冲や狩野山雪の空間構成と、アニメーター金田伊功の関連性について、『スーパーフラット』という概念を編み出して、アメリカのアートシーンに紹介し、ブレイクできました」

アスリートなら、記録的な数字を出すとか、トーナメントを勝ち進み、突然、金メダルということがあるかもしれないが、アーティストの場合は才能に加え、周到な蓄積と地道な制作で世界を開く。村上もそれを実践してきたのがわかる。



# STARS!

SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD

STARS: SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD

## Takashi Murakami

なぜにフジヤマ、カブキ、オニ？  
これが「お・も・て・な・し！」

現代美術にはイマとココが入っています。イマ、このコロナ禍に何ができるか。ココ、東京で起こっていること、見せるべきものは何なのか？ 村上隆の答えはこうでした。「僕はやっぱり、This is 東京観光みたいなものにならなと思って」。

photo\_Kenshu Shintsubo  
text\_Yoshio Suzuki

### 村上隆

1962年、東京都生まれ。日本の伝統絵画やマンガ、アニメと現代美術の関係性を理論立てる「スーパーフラット」論を提唱。2005年「リトルボーイ展」(ジャパン・ソサエティ、NY)で全米批評家連盟ベストキュレーション賞受賞。2007年～2009年「MURAKAMI」欧米4都市巡回。ヴェルサイユ宮殿などでも個展を開催。

### 森美術館展 ★ 片岡真実の

#### POINT OF VIEW

東日本大震災を契機に制作された赤鬼と青鬼、それと連動する映像作品(原発を見に行くよ)は、西洋に戦いを挑んできた村上像とは少し異なる心象をのぞかせます。「死についてずっと考えていた」という村上さん。映像ではナレーションも最後の歌もご自身で！良い声です。



鎌倉にあるご自宅の2階がアトリエ。壁一面は本棚、反対側に100号以上の大きなキャンバスが何枚も置かれていた。

## STARS: SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD

# Lee Ufan

### ものどもの、ものと人、ものと空間。 アートは暮らしの中にも存在する

石や鉄の棒やガラス、抽象ペインティングで構成された李禹煥の展示空間に足を踏み入れた瞬間、非日常の空気に包まれます。李が展示するアートとは何なのか？ その秘密を解く鍵を探すため、李の自宅兼アトリエで話を聞きました。

photo\_Manami Takahashi (Atelier)  
edit & text\_Mari Matsubara



#### 李禹煥

1936年韓国慶尚南道生まれ。56年に来日。大学で哲学を学んだのちアーティスト活動を開始、「もの派」の中心人物として脚光を浴びる。2011年NYグッゲンハイム美術館、2014年ヴェルサイユ宮殿での個展など、世界的に活躍。2010年、直島に安藤忠雄との協働で「李禹煥美術館」が開館した。現在パリと日本を拠点に活動。

#### 美術新聞 片岡真実の

#### POINT OF VIEW

1969年の《関係項》を再制作。ロープをかけた岩を6人で持ち上げ、厚さ2センチのガラスの上に一気に落とす。その瞬間にエネルギーが炸裂しました。相対する素材のぶつかり合いや「出会い」。キャンバスに描かれた点や線にも見られるこのエネルギーがすべての始まりです。

「STARS 展」での李禹煥の展示風景。敷き詰められた小石の上を歩き、いろんな角度から鑑賞できる。

展示風景：「STARS 展」現代美術のスターたち—日本から世界へ—森美術館（東京）2020年 撮影：高山幸三 画像提供：森美術館

「ハンカチは何枚も持っていて、たいてい自分で買います。無地や格子柄が多いです。少し色があったほうがいいですね。真っ白は汚れが目立つから持ちません。他人に任せず、自分で洗います。綺麗なハンカチをいつも持っている人は、いい人のように見えます」

### 暮らしの中のアート① ハンカチ



アトリエの隣にある茶室に李朝家具を置き、その上に18世紀初頭の伊羅保茶碗を。白壁に直接描いた絵が床の間の代わり。「韓国の昔の家のように油紙を床に敷きました。ここであぐらをかいて、お茶を飲んでぼーっとしたり、お客様に茶を点てたりします」

### 暮らしの中のアート② 茶碗



日常からちょっと離れた次元、  
非日常へと導いて、感覚を開いてくれる存在がアート。

ずらりと並んだ李の革靴。「代わりばんこに履いて、30〜40年ぐらい経った靴もあります。それぞれ10年以上は履き続けているはず。イギリスの靴が多いかな。無骨で特に格好いい靴ではないけれど履きやすい。中敷きをしょっちゅう替えて大事に履きます」

### 暮らしの中のアート③ 靴

1960年代末から70年代に日本の美術界に起こった「もの派」の中心人物としてムーブメントを牽引した李禹煥。石や紙や木、鉄などの素材をほとんど未加工のまま配置して空間を構成する手法は、その後も一貫して変わらない。ものどもの置かれた間には、対峙や衝突や融和が現れたり、外部空間との出会い（あるいは拒絶）が生まれたりする。その関係性こそをアートとして展示しているのが李の作品だ。李はしばしば「関係項」という言葉を作品タイトルに使っているが、「STARS展」でも、石やガラス、鉄棒、抽象ペインティングなどの相互の関係性、またそれを観る私たちとの関係性、空間とものとの関係性を表しているようだ。関係性がアートであるとは、一体どういうことだろう？ そもそもアートってなんだろう？ そんな素朴な疑問を抱きながら、李さんのご自宅兼アトリエを訪問してお話を伺った。

#### 李さんの暮らしの中に存在するアートとは？

——アートとは、李さんにとってどんなものなのでしょう？  
李（以下L）アートとは、芸術とは、と大上段に構えなくても、実は身の回りに転がっているものではないかと思います。僕にとってアートは、非日常性を喚起することです。ヨーゼフ・

ボイスが言った「人間はみな芸術家である」という言葉は誤解を招きやすいから、僕はあまり賛成できないけれど、いい意味で捉えれば、人間はみな気づかぬうちに自分の生活の中で芸術をやっている、とも言えます。——具体的にはどういうことでしょうか？  
李さんのこのアトリエやご自宅にもアートは存在しますか？  
L たとえばこの靴。僕は旅行をよくします。人生そのものが旅だとも言える。だから靴はなくてはならない存在で、何足も持って交代で大事に履きます。靴磨きも絶対に自分でします。晴れた日にまとめてたくさんの靴を磨きますが、こうやって見ていると、自分が生きてきた時間が蓄積しているようで、愛おしい気持ちがこみ上げます。そういうことが芸術の持つ喚起力ではないかと思うのです。ゴッホの初期の作品に靴を描いた静物画がありますが、ボロボロの紐靴に労働の激しさや苦しさ、悲しみ、うっすらとこもっている闇が感じられます。ゴッホは靴を描いているのではなく、その悲しみを描いている。僕もそういう影響を受けていると思います。靴にまどわりついた空気が記憶や感情を呼び起こすさまがアートなのです。——他にも暮らしの中のアートはありますか？  
L たとえばこの高麗茶碗も。僕は仕事をする前に緑茶を飲みますし、旅先にも抹茶茶碗を

持って行きます。パリにいたら、パッとカフェに行ったら1杯コーヒーを飲んで、すぐ仕事に戻ったりします。僕の日常にとってお茶を飲むという行為はとても大事なことです。お茶の時間は、日常と非日常の間に揺れる自分の心を遊ばせてくれるのです。そして気持ちを切り替えたり、新鮮にしてくれるもの。そういう意味で、お茶の時間や茶碗にも非日常への喚起力があると思うのです。もう一つ、ハンカチにも同様の感慨を持ちます。ハンカチはふだんは用がないですね。洗った手を拭く時だけ登場する。でも機能だけがあるのではなく、ハンカチは独特のエスプリというかノスタルジックなものを孕んでいるように思います。学生の頃、ボロボロのハンカチで汗を拭いていたら、隣にいた女子学生がそれをふいに取り上げて、洗ってくれました。また、旅先でホテルに泊まった時、自分で洗ったハンカチを干しておいたら、ルームサービス係がアイロンをかけておいてくれたり。ハンカチって、いろんな思い出があるじゃないですか？ 薄くてヒラヒラとした一枚の布の周りに、なんとも形状しがたい些細な気分が漂っています。こう考えると、生活の中にアートを飾るのではなく、アートは生活の中にあるものなのでしょう。ものがアートなのではなくて、そこから何かを喚起させる力がアートなのだ。そんなふうに思いながら、僕は作品を作っています。

「時の海—東北」に使われているLEDガジェット。数字のフォントは1987年に宮島が線の太さや角度にこだわってデザインしたものをずっと使用している。



**STARS: SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD**

# Tatsuo Miyajima

明滅する数字に3,000人の記憶と思いが込められた「時の海」を目指して。

アーティスト活動の最初期から、一貫してデジタル数字を用いた作品を作り続ける宮島達男。2011年の東北大震災以降、各地でワークショップを重ねて取り組んでいるプロジェクト「時の海—東北」に込められた思いとは？

photo (digital gadget) \_Koutaro Washizaki  
edit & text\_Mari Matsubara

★  
片岡真実の  
POINT OF VIEW

「青と緑は海の色」と宮島さん。この2色のLEDを一緒に使ったのは初めてだとか。展示の初日に「あと4倍くらい大きい空間が欲しかった」と言われました。仏教的な宇宙観でいう三千大千世界を目指し、3,000個のLEDを使いたいから、いま719個。そう、4倍必要でした！

「STARS展」の宮島達男の展示の一つに「時の海—東北」がある。真っ暗闇の中、水が張られたフロア一面に青と緑のLED数字がちらばり、それぞれの速さで1から9へと、または9から1へ順にカウントしていく。0は表示されず、一瞬暗闇となり、またカウントが始まる。それが永遠と繰り返される。コンマ数秒でまたたく間にカウントするものもあれば、数字が変わるのに数十秒かかるものもある。そのさまは夜空の星のきらめきのようなでもあり、ゆらめく水面に飛び交う蛍のようなでもあり。この作品は、数字は、何を表現しているのだろうか？

—宮島さんは1987年に作品《30万年の時計》を発表して以来、LEDのデジタル数字を使い続けています。それはどうしてですか？

宮島（以下M）アーティストとして生きていく上で、3つのコンセプトを表現のベースにしよう決めました。（それは、変化し続ける）〈それは、あらゆるものと関係を結ぶ〉〈それは、永遠に続く〉。この3つを表現するにはどんな素材がいいか？誰もやったことがない形は？

と考えた末に行き着いたのが数字でした。数字がカウントされ、永遠に繰り返すさまは命のリズムや輪廻転生を想像させます。0をなくして暗闇にすることで、より生と死のダイナミズムを表現できるのではないかと。《30万年の時計》ができた時、これで作家人生を賭けられると思いました。自分の道しるべ、歩を進める方向が明確になって、嬉しかったですね。

—デジタル数字はユニバーサルなものですね。

M そのことは、作品を作り始めてから徐々に思い至りました。国際的な展覧会に出品した

時、アボリジニの人も、アフリカの人たちにも分かってもらえる。世界中の人たちが数字という表現にシンパシーを感じ、すぐに理解してくれる。これは強いアートだなと気づきました。

—「時の海—東北」について教えてください。

M 2011年の東日本大震災は、本当にショックな出来事で、しばらくは作品を作れませんでした。震災直後は目の前に苦しんでいる人がいて、パンは役立つけれど、アートなんて何も役に立たないと思知らされました。2〜3年経ってやっと、アートが心に傷を負った人の癒しや励ましになれるのではないかと考えられるようになりました。2014年頃から構想を始め、形になったのが2017年石巻市と牡鹿半島で行われた「リポーンアート・フェスティバル」に出品した「時の海—東北」です。構想を練る上で現地の人たちにリサーチした時、あれほどの津波に襲われても、海に対して恨み言を言う人は誰もいなかった。地元の方は海と共に生きて、海と共に喜び、悲しんでこられたのだと知りました。そこで、水の中で一つ一つ異なる時間設定をしたLEDの数字が輝く作品を作ることになりました。300人の一般の方に参加していただき、自由にカウンター速度を決めてもらいました。こうしたワークショップを石巻、陸前高田、いわきなどで開催しています。今後3,000人まで募り、東北の海が見える高台に恒久設置を目指すプロジェクトなのです。2027年の完成を目標に、設置場所も募集中です。

—参加する人たちは、どのようにカウンター速度を決めていますか？

M たとえば震災で亡くなったおじいちゃん

継続的に行っているワークショップでは、子供や大人たちにLEDガジェットのタイム設定をしてもらう。東日本大震災で被害を受けた地域の人を中心に、現在も参加者を募集中。作品横には参加者の名前と配置図が掲示される。

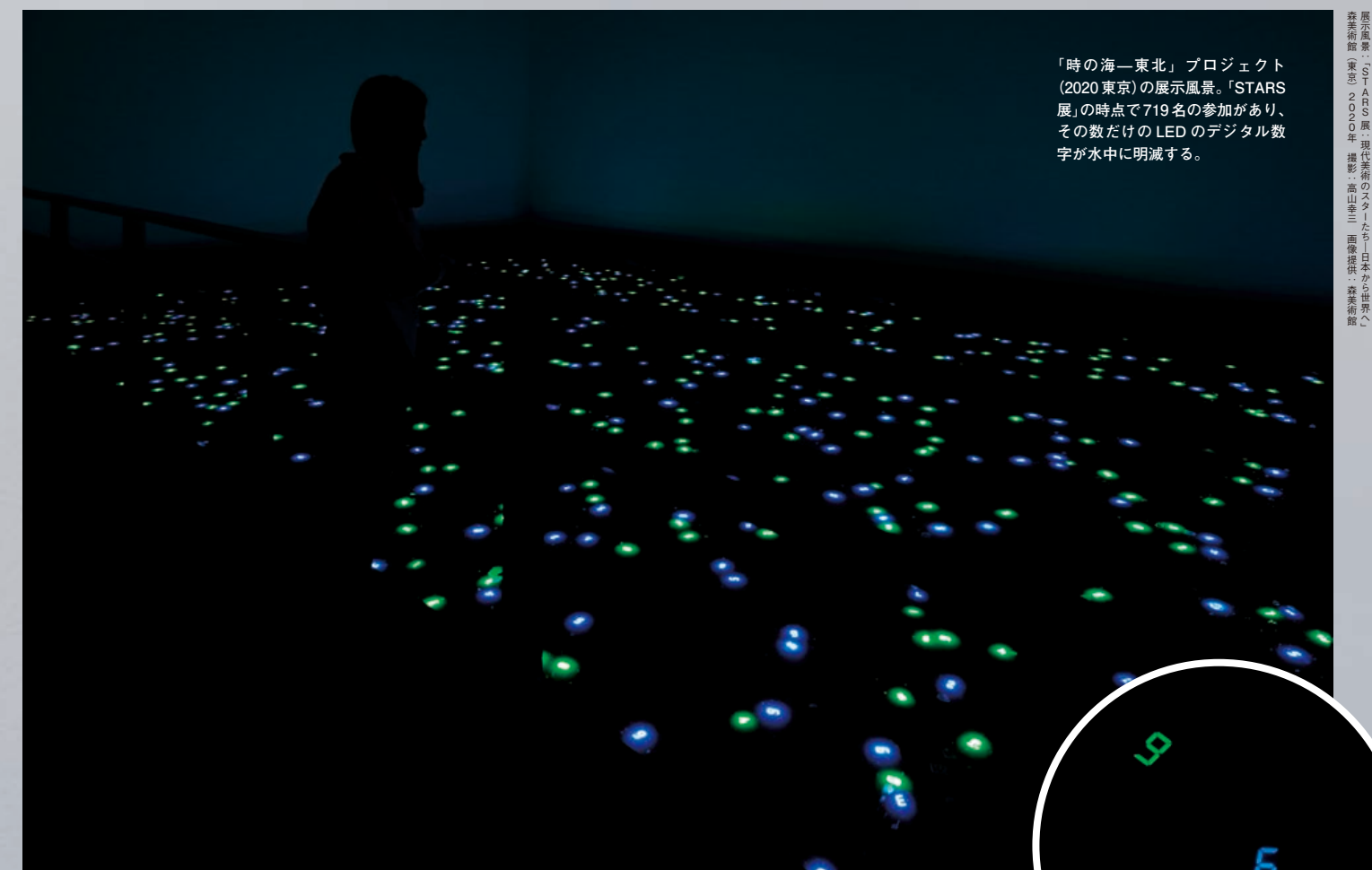


Photo: Tatsuo Miyajima Studio

誕生日を表す数字3つで秒数を決める人もいます。いろんな数式を紙に書いて1時間以上も真剣に考え続ける人もいます。震災の時に考えたこと、絶望、悲しみ、苦しみ、優しさ、信頼、希望、決意した未来への約束。そうした思いをのせてスピードを設定していきます。

—プロジェクトが完成したら、どんな作品になるでしょう？

M 3,000人の命の交響楽を奏するような作品になるでしょう。自分自身では時間の長さを見せない人間にとって、時間とは記憶でしかありません。あの時はこうだった、こういうことをしたという記憶。時間は思い出とともに伸び縮みし、時は永遠となる。そういうことが3,000個のLED一つ一つに込められるのです。



「時の海—東北」プロジェクト(2020東京)の展示風景。「STARS展」の時点で719名の参加があり、その数だけのLEDのデジタル数字が水中に明滅する。

写真提供：片岡真実、撮影：山崎孝三、編集：山崎孝三、デザイン：山崎孝三、制作：山崎孝三

## 宮島達男

1957年東京都生まれ。茨城県在住。1988年ベネチア・ビエンナーレ「アペルト88」で「時の海」を展示し国際的な注目を集める。以来、デジタル数字を用いたインスタレーションやペインティング、立体作品を制作。現在、東日本大震災犠牲者の鎮魂と記憶の継承を願い「時の海—東北」プロジェクトを継続中。幅広い支援と参加を募る。www.seaoftime.org



森美術館展

★  
片岡真実の

## POINT OF VIEW

2009年に始めた「わが永遠の魂」シリーズは1,000点を目標しています。2004年、森美術館での個展では100歳まで描き続けたいとおっしゃっていましたが、さっと実現しますね。時代や社会の変化にかかわらず、ただひたすら絵を描き続けることで、草間さん自身に「永遠の魂」がもたらされる。納得です。

右の写真は、「STARS展」で体験できる「無限の鏡の間」シリーズ（Infinity Mirrored Room - 信濃の灯）（2001年）と同じものですか？

徳山 「STARS展」に出展されている作品は、2002年に松本市美術館で開催された個展「草間彌生：魂のおきどころ」に合わせて制作されたものです。その原型が、1966年にニューヨークのカステラー二画廊で開かれた個展「クサマズ・ビーブ・ショー」（別名：エンドレス・ラブ・ショー）で発表された、六角形の鏡張りのボックスの作品です。右の写真はその時に撮られたものですね。

草間さんは、自己を映し出すものとして、ナルシズムへの関心から、鏡という素材を用いています。幾重にも反復し、映し出されるイメージは、自己陶醉、そして、草間さんの場合、その先には「自己消滅」というコンセプトに繋がります。究極の自己陶醉は、自己消滅と表裏一体であるという、草間作品を理解する上で重要なコンセプトが、本作で表現されています。このシリーズは、近年の展覧会に出展するたびに長蛇の列をつくるほどの人気作品なのですが、観客の多くが、鏡に映る自分の姿をスマホで撮りたいという欲求に駆られるのは、本作のコンセプトからも納得できます。

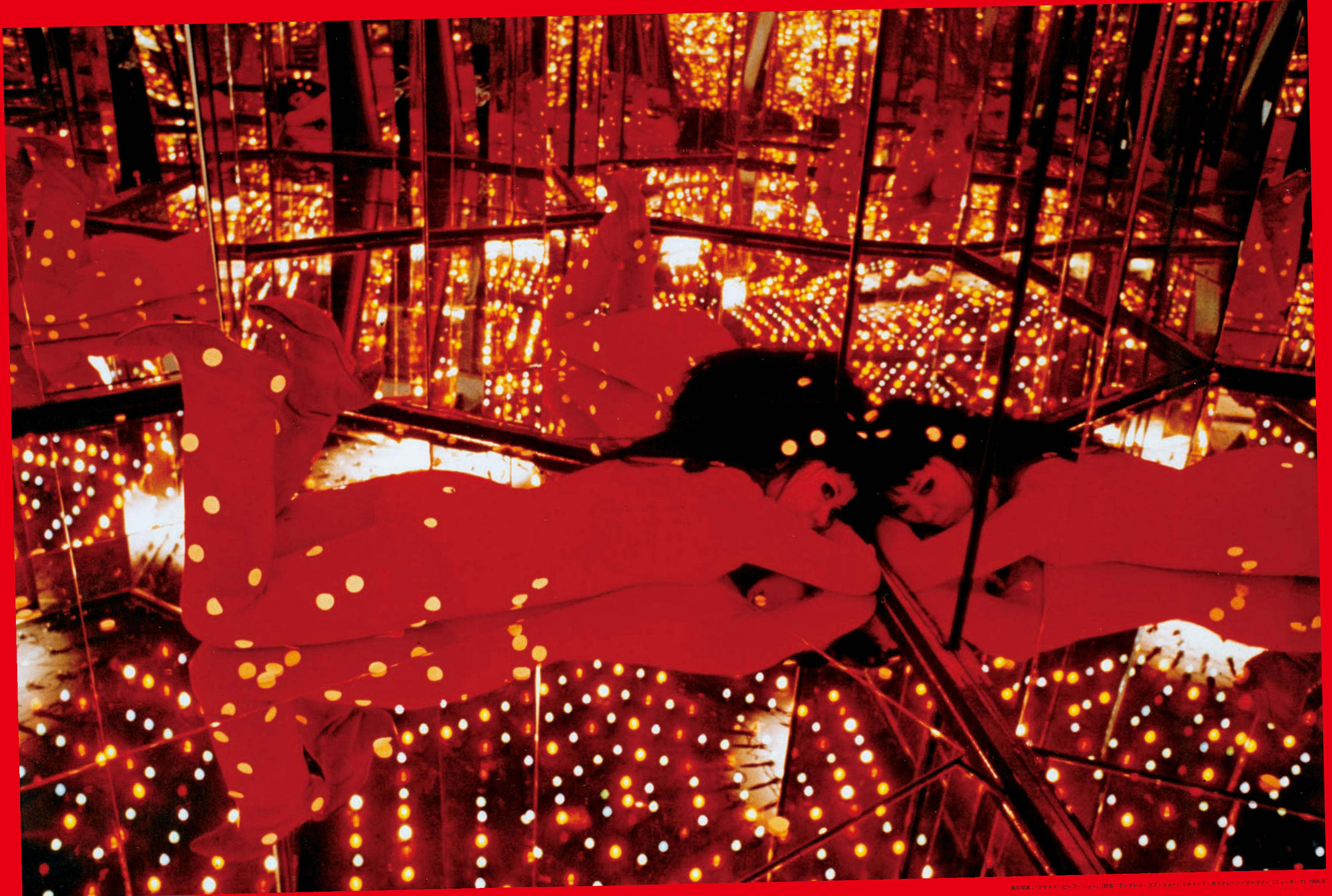
※ちなみに本展では、残念ながら作品の撮影上、撮影禁止となっていますのでご注意ください。

写っているのは草間さんご本人ですか？

徳山 そうですね。今回の「STARS展」では、アーカイブセクションに資料を展示するだけになりましたが、この作品が発表された1960年代の草間さんの重要な表現として、パフォーマンスやファッションショーなど、美術の枠組みを超えた活動がありました。主なものとして、1960年代中旬からは「ハブニング」と呼ばれるパフォーマンスを行っていました。ハブニングは、複数のパフォーマーを草間さんが指揮して、裸になったパフォーマーの体に草間さんが水玉模様を描くなどのパフォーマンスをするものです。これらの身体を用いたパフォーマンス作品には、ベトナム戦争への抗議など、政治的な意味が含まれていました。なかでも、ニューヨーク近代美術館（MoMA）で行なったパフォーマンスは、「ニューヨーク・ポスト」の一面に取り上げられるなど、センセーショナルな表現として注目を集めました。美術館以外にも、セントラルパークやニューヨーク証券取引所などでも、積極的に行なっていました。

草間彌生

1929年、長野県松本市生まれ、東京都在住。1957年に渡米。ネットペインティングやソフト・スカルプチュア、ハブニングなどによりNYのアート・シーンにおける重要な存在となる。1973年に帰国後も精力的な活動を続け、2011年からテート・モダン（ロンドン）やホイットニー美術館（NY）など欧米4都市を巡回する回顧展を開催。



展示写真「クサマズ・ビーブ・ショー」（別名：エンドレス・ラブ・ショー）リチャード・カステラー二・ギャラリー（ニューヨーク）1966年

**STARS: SIX CONTEMPORARY ARTISTS  
FROM JAPAN TO THE WORLD**

# Yayoi Kusama

interviewee\_Hirokazu Tokuyama

無限に反復し、増殖していくイメージが  
観るものを虜にするのはなぜだろう？

1950年代から現在まで、多岐にわたるメディアを用いて数々の作品を生み出してきた草間彌生。中でも展示のたびに長蛇の列を生み出す人気作品のひとつが「無限の鏡の間」シリーズです。その魅力の一端を森美術館のアソシエイト・キュレーター、徳山拓一に聞きました。



「無限の鏡の間」シリーズの他に、1959年以降、NYで発表された重要作から最新の鏡面シリーズまでが展示されている。

展示期間 「STARS展」 現代美術のスターたち—日本から世界へ—  
森美術館（東京）2020年 10月10日（開館）—10月25日（閉館）

photo\_Odawara Art Foundation  
edit & text\_Mari Matsubara

STARS: SIX CONTEMPORARY ARTISTS  
FROM JAPAN TO THE WORLD

# Hiroshi Sugimoto

## アーティスト人生の集大成となる「江之浦測候所」とは何か？

「STARS展」の最後の展示室に、杉本博司が字幕から声の出演に至るまですべての構成・演出を手がけた映像作品《時間の庭のひとりごと》が上映されています。その舞台である「江之浦測候所」とはどんな場所なのでしょう？



レンズに使われる光学ガラスを板状にして敷き詰めた光学硝子舞台。手前に古代ローマ円形劇場を写した観客席。舞台の左に沿うのは長さ70mの冬至光通経隧道。



杉本博司

1948年東京都生まれ。70年に渡米、74年よりNY在住。写真を発端に近年は彫刻、インスタレーション、文案演出、戯曲制作、建築、造園、料理、執筆と活動は多岐にわたる。2009年高松宮殿下記念世界文化賞など受賞多数。構想から20年を経て「小田原文化財団 江之浦測候所」を2017年にオープン。現在も整備・増築計画を推進中。

「STARS展」は、各作家のデビュー作と最新作を展示しているが、杉本博司にとって最新作であり、集大成ともいべき作品が、2017年に小田原市江之浦にオープンした「小田原文化財団 江之浦測候所」だ。ここを舞台として撮影された映像に、杉本自作の七五調のつぶやきのような字幕と音声が入った33分余りのショートムービー《時間の庭のひとりごと》が展示室で上映されている。上空からドローンで撮影された広大な敷地の全景や、季節、時間、天候で様々な表情を変える建造物や園内の設置物が美しい映像で収められている。それらの一つ一つを体感するには現地まで足を運ぶのがベストではあるが、まず映像を理解するためにも「江之浦測候所」とは何かを知っておきたい。

### 人間の生死、意識、時間への探究。作品のテーマすべてが詰まった庭。

杉本博司は写真を媒体として作品制作を行ってきた現代美術作家である。「STARS展」でも展示されているジオラマシリーズ《シロクマ》(1976年)は最初期の作品だ。アメリカ自然史博物館のジオラマを大型カメラで撮影することで、剥製の動物をまるで生きているかのように印刷紙に焼き付けた。つまり死にカメラを向け、生の幻視を写しとった。海景のシリーズでは、人工物がまったく入らない海の景色を、世界各地で同じ画角構成でモノクローム写真におさめた。そこには人間という存在が出現する前の太古の海を見てみたいという欲求があった。またシアターシリーズは、映画館のスクリーンを、1本の映画を上映しながら長時間撮影した作品だ。なんの絵も映らずただ白く発光するスクリーンには、映画1本分の時間が写っているとも言える。こうした杉本の作品に通底する「死」「水」「光」「時間」への探究と、杉本自身の日本の古美術蒐集の経験や知識、石に対する執着とが相まって作り出されたのが「江之浦測候所」だ。

まずこの地は、杉本が幼い頃に家族とともによく訪れた熱海へ向かう東海道本線が走る場所で、メガネトンネルを通る時に映画のコマ送りのように見えた青い海の風景が、杉本の記憶の原初なのだという。この場所に、太陽の運行を測る「測候所」を設けようと思いついた。杉本は「人間の意識はどのように生まれたのか」ということに以前から興味があり、それが前述の作品シリーズのコンセプトにもつながっている。古代の人間は、太陽の位置が季節によって変わることを知り、自分の居場所を確認し、自己を意識し、季節や時間が巡ることを理解した。その原初感覚を追体験する場として、「江之浦測候所」は設計された。冬至の日には、朝日が直面する場所に光学ガラスの舞台を設け、併設する鋼鉄のトンネルの中を光はまっすぐに突き進む。夏至の日には、片持ち屋根の100メートルギャラリーの中を朝日が一直線に駆け抜ける。春分・秋分の日には、石舞台の橋掛りや茶室前の鳥居の真ん中を陽光が貫く。天空を測候

するこれらの建造物がみかん畑の傾斜地に点在し、眼下には相模湾を望む。年間を通じて予約制で見学者を受け入れ、時に能狂言などのパフォーマンスや、日の出や月見を楽しむイベントが行われたりしている。オープン後も、庭園の整備は続けられた。敷地内に放置されていたボロボロの農具小屋を改装し、化石コレクションを展示する〈化石窟〉としたり、竹林を切り開き、道を作って長年蒐集し手元に置いていた石仏や石塔を据えたり、また自身の作品であるアルミニウム製の数理模型彫刻も設置された。なかには縄文時代の祭祀に用いられたとされる石棒も展示されている。数億年前の化石から、最先端の金属加工技術が可能にしたアルミニウム彫刻まで、様々な時代のものが点在し、時間の層を巡り歩くような体験ができる知的テーマパーク。「時間の庭」でつぶやかれた杉本博司のひとりごとや唄に耳を傾けながら、まずは「STARS展」で、この庭のダイジェスト映像を堪能したい。



映像作品《時間の庭のひとりごと》(2020年)上映風景。映像の最後を飾る杉本のアカバ独唱にも注目。

建築家：杉本博司、2017年完成。写真：高橋三郎、2020年撮影。写真：高橋三郎、2020年撮影。写真：高橋三郎、2020年撮影。

### 杉本博司のひとりごと 導かれながらたどる 「江之浦測候所」の見どころ。

展示室で上映される映像作品《時間の庭のひとりごと》に登場する数々の見どころ。映像に対して杉本のひとりごと(五七調の歌)が字幕として出ているが、その内容はどこか謎めいていて、詳細は明かされない。ひとりごとが暗示する秘密の一端を特別にご紹介します！

「渡る月影さして映るは虚ろ消えゆかん」  
京都嵐山にある渡月橋の礎石で、室町時代のもの。1606年に橋は架け替えられたがこの石はそれ以前のもの。真ん中に穿たれた穴は橋脚を支えた穴。



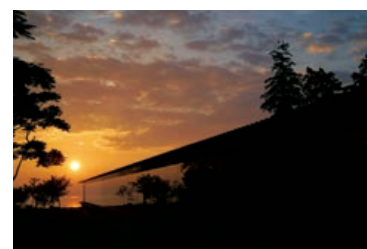
「ある日の大地震 あつという間土砂に埋もれて3億年」  
3億年前のワムユリの巨大な化石の一部。海底火山の爆発が何かで一瞬のうちに土砂に封じ込められた生物が、途方もない時間を経て、目の前にある。



「ちんちくりんの変な竹 オンデューロイドと申します」  
数理模型「POOD POOD」オンデューロイド。平均曲率が0でない定数となる回転面を数式化し、3次元の彫刻としたもの。数学の概念が可視化され竹林と呼ぶ。



「夏至のあさひののぼる時 おてんと様がおんを出す」  
海拔100m地点に建てられた100mギャラリー。片側はガラス窓が柱の支えなしに自立する。夏至の朝、海から昇った太陽光がここを直達する。



「利休待庵 生き写し 名を雨聴天と申します」  
利休自作の茶室で唯一の現存例とされる「二畳茶室」待庵のサイズを忠実に模して作った茶室。トタン屋根に雨が落ちる音を聞くことから茶室がつけられた。



「うろは空で 洞だ 僕は僕で うろはうろする」  
崖地に生えた巨木の根が露出し、天然の祠のようになつた場所に、縄文時代の石棒を祀った神が降臨する鎮守の森とするために、整備が続く。



「小田原文化財団 江之浦測候所」  
●神奈川県小田原市江之浦 362-1 ☎0465-42-9170。火曜・水曜・年末年始休、臨時休館日あり。見学は事前予約制：午前の部 (10時～13時)、午後の部 (13時30分～16時30分)。定員入替制。入館料3,300円(税込)。中学生未満入場不可。詳細はHPで。www.odawara-af.com



# STARS:

## SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD

### 「STARS展」を企画した狙いとは？

こんな展覧会があり得るのか？すでに世界各地で活躍し、評価の定まったアーティスト6人を見せることに、どんな挑戦があるのか？オリンピック・パラリンピックだからと言っても、これは直球すぎないか？2017年にオリンピック時期の企画を森美術館のキュレーター陣で議論し始め、外部の意見も聞きつつ、「STARS展」というタイトルと出品アーティストのラインナップを検討するなかでは、いろいろな自問自答がありました。最終的にインバウンドの観客も念頭にいれ、「日本で是非とも見たい作品は何か？」を問うなかで、草間彌生、李禹煥、杉本博司、宮島達男、奈良美智、村上隆の6人が一堂に会した唯一無二の機会があったのも良いのでは、ということになりました。彼らの作品を常設で見られる場所は日本の美術館でも数えるほど。6人を同時に見られる常設の場所は無いのです。ただし、「スターの作品を見せる」だけではなく、「彼らがいかに現在のよる評価に至ったのか」、その道のりを伝えたいと考えました。海外で作品を見せ始めた最初期の作品と最近作を二本柱に据え、それをどのように繋いで構成したかは、各アーティストとの協議によるものです。

併せて展示されている年表は、彼らのキャリアの軌跡を展覧会歴を基本に、いつ、誰が、どのように評価したのかを辿る資料です。これは是非ともじっくり見ていただきたい。6人はいずれも日本を離れてアメリカやドイツ、フランスなどで活動し、視点が海外の人もいます。日本を外から見ることで初めて「日本とは何か」を問うという経験は、多くの人が思い当たるはず。村上さんが指摘する通り、現代アートが西洋を中心に発展してきたなかでは、西洋

### STARS展:

現代美術のスターたち—日本から世界へ

会期：開催中～2021年1月3日（日）会期中無休  
開館時間：10：00～22：00 ※火曜日のみ17：00まで ※ただし11月3日（火・祝）は22：00まで ※最終入館は閉館時間の30分前まで 会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）料金：一般 2,000円ほか ※当日空きがある場合は予約なしでも入館できます。詳しくは森美術館のWebサイトで最新情報をご確認ください。公式HP：[www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum) 問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）



世界のアートシーンで認められた日本の現代美術の巨星6人が揃い踏みした「STARS展」はいかに企画されたのか。人選から作品選び、美術館の試みまで、片岡真実 森美術館館長に聞きました。

の様式に追随するか、独自の様式を確立するか、つまり前衛か伝統かという議論も繰り返されてきました。その二者択一ではなく、国際様式やその動向を理解しながら、自身の文化的背景を媒介にした言語を確立し、それを普遍的なレベルに昇華させることが国際的な舞台では求められます。日本的、東洋的、仏教的な宗教観や死生観を起点に、「STARS展」アーティストの多くが無限の宇宙空間へと意識を拡大していったことにも頷けます。

近年では、世界各地でそれぞれのモダニズムが発展してきたという見方も広がり、西洋 vs 非西洋という構図も崩れつつあります。そうしたなかで「日本の現代美術」の世界的な評価にも変化がみられています。その大きな流れを1950年代から2019年までに海外で開催された日本現代美術展50展を通して見せるアーカイブ展示「日本の現代美術はどうやって海外に紹介されたのか」からも読み解くことができます。ニューヨーク近代美術館（MoMA）が60年代に企画した日本展がかなり酷評されていたり、80年代末から90年代初頭のバブル経済期に展覧会が集中していたりと、政治経済的な動向との関連からアートを見ることも実に面白い。評価の基軸が変化する、つまりゲームのルールが途中から変わってしまったようなもの。ここは展覧会全体の核心部分でもあります。

コロナ禍による5カ月の休館を経ての「STARS展」。世界がスローダウンしているいま、長い時間をかけて世界からの評価を勝ち取った6人のキャリアや人生の軌跡は、私たち自身のこれからの生き様にも多くの示唆を与えてくれることでしょう。

さらに詳しく！YouTubeで体験しよう



YouTubeの森美術館ページで  
ギャラリートークなど  
「STARS展」に関する動画や  
情報をご覧いただけます！

[www.youtube.com/user/moriartmuseum](http://www.youtube.com/user/moriartmuseum)



片岡真実

森美術館 館長／ニッセイ基礎研究所都市開発部研究員、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館。2020年館長就任。CIMAM（国際美術館会議）会長。文化庁アートプラットフォーム事業・日本現代アート委員会座長。AICA（美術評論家連盟）会員。その他、日本およびアジアの現代アートを中心に執筆・講演・審査等多数。

Enjoy Art More!

# STARS:

## SIX CONTEMPORARY ARTISTS FROM JAPAN TO THE WORLD

Yayoi Kusama  
Lee Ufan  
Tatsuo Miyajima  
Takashi Murakami  
Yoshitomo Nara  
Hiroshi Sugimoto



### 「STARS展」をより深く楽しむための4章

アートの楽しみ方はひとそれぞれ。でももし展覧会の担当者とともに会場を歩きながら、自分では気がつかなかったポイントを指摘してもらえたなら！思わぬ出会いや発見が生まれるかもしれません。そこでこのセクションでは、「STARS展」をめぐる気づきからアートとの新しい付き合い方まで、森美術館のキュレーターや専門家の方々の声に耳を傾けてみましょう。





★  
**YAYOI KUSAMA**  
Born 1929 in Matsumoto, Nagano Prefecture, Japan.  
Based in Tokyo, Japan.

ABROAD

## 全員海外経験者

草間彌生は1957年に渡米し、翌年より1973年までニューヨーク在住。李禹煥は1956年に韓国より来日、ここ数十年間、日本国外での滞在が半分以上。杉本博司は1970年に渡米、1974年よりニューヨーク在住。宮島達男は1990～1991年にかけてニューヨークやベリンに滞在。奈良美智は1988年～2000年の間、デュッセルドルフとケルンに在住。村上隆は1998年よりニューヨークにもスタジオを構えています。こうして外から日本を見つめる経験が、国際的に認められるのには重要であったのかもしれない。(権)



★  
**LEE UFAN**  
Born 1936 in South Gyeongsang, South Korea.  
Based in Kamakura, Kanagawa Prefecture, Japan.

答えてくれた人

近藤健一 (シニア・キュレーター)  
権 玲子 (キュレーター)  
徳山拓一 (アシリエイト・キュレーター)  
熊倉晴子 (アシスタント・キュレーター)  
矢作 学 (アシスタント・キュレーター)

MUSICIAN

## ミュージシャンとのコラボレーション

奈良美智は、音楽への造詣が深く、DJとして選曲を行うラジオ番組を持っていたことも知られています。また、少年ナイフやR.E.M.を始め、多くのミュージシャンとの交流から、CDジャケットへの絵画提供などを行ってきました。村上隆も数々のミュージシャンとのコラボレーションを行っており、今年のグラミー賞主要4部門を総ナメしたビリー・アイリッシュのミュージック・ビデオの制作などでも話題となりました。(権)

PHALLUS

## 男性器の表象

本展では、男性器をモチーフとした作品が展示されています。村上隆の《マイ・ロンサム・カウボーイ》では若々しい男性のフィギュアが、勃起した性器から投げ縄の様に精液を放出しており、抑圧された行き場のないビドーが漫画とアニメの領域で発散されている様子を表現しているかのようです。草間彌生はニューヨーク移住後にソフトスカulptureの制作を始めますが、作品を覆う無数の突起物は男根を表しており、現地のアート業界に蔓延していたマスキュリズムを象徴しています。杉本博司の映像作品《時間の庭のひとりごと》には、石のリング(男根)のようにも見える縄文の石棒が祀られているシーンもあります。(矢作)



★  
**TATSUO MIYAJIMA**  
Born 1957 in Tokyo, Japan.  
Based in Ibaraki Prefecture, Japan.

UNIVERSE

## 宇宙という隠れた繋がり

村上隆の《阿》像、《吽》像の《阿吽》は、サンスクリット語で宇宙の始まりと終わりを表し、李禹煥は「作ること」と「作らないこと」など対極にある概念の両義性を通して万物の心理を表現します。草間彌生の《Infinity Net》や《Infinity Mirrored Room》には作家の目に映る無限の宇宙が投影され、宮島達男の「時の海—東北」プロジェクトでは、最終的に目指す3,000個のLEDで、仏教的な宇宙観「三千大千世界」を現そうとしています。奈良美智の《Voyage of the Moon (Resting Moon) / Voyage of the Moon》や《Miss Moonlight》が展示された空間では、夜空で創造力を育む月がテーマとなっています。杉本博司の「レボリューション」シリーズや江之浦測候所を映画化した《時間の庭のひとりごと》、ギベオン隕石などは宇宙の中の地球という、人類史を超えた視点を提示しています。(権)

311

## 東日本大震災への応答

村上の巨大な鬼を表す彫刻作品《阿像》《吽像》は震災に回答する形で2014年に制作された作品で、大惨事の後に芸術と宗教が持つ力を問うものです。新作の映像作品《原発を見に行くよ》では若いカップルが被災地を訪れる様子が描かれます。宮島の「時の海—東北」は震災犠牲者の鎮魂と震災の記憶の継承を願い2017年に始動したプロジェクトです。また、本展には出展はされていませんが、奈良の《No Nukes》は、震災後の反核デモの参加者に作品画像の使用を許可したことで知られています。(近藤)

WRITING

## 執筆活動

それまでの既成概念を打ち壊す芸術動向はどのように確立されるのでしょうか。アーティストが新しい表現を生み出すことはもちろんですが、同時に作品の理解を促す言説が構築されることも不可欠です。興味深いことに、本展出品作家の全員が執筆活動を通して自身の芸術観を語っており、作品の意味を生成するためのコンテクストを作ってきました。草間彌生の小説での表現、杉本博司も多くのエッセイを書いております。特に、李禹煥と村上隆は、それぞれ「もの派」と「スーパーフラット」という日本を代表する芸術動向の理論的支柱として活躍したことが、国際的な評価を得た理由のひとつとなっています。(矢作)



★  
**TAKASHI MURAKAMI**  
Born 1962 in Tokyo, Japan.  
Based in Japan.

## 森美術館のキュレーターに聞きました、アーティストのひみつのつながりとは?

「STARS展」では6人のアーティストが手がけた6つのバラバラな展示空間が並んでいる——そんな印象を持つ人もいるかもしれません。でも実はそれぞれが見えないひみつの糸でつながりあっているとしたら? 各アーティストを担当した森美術館のキュレーターに聞きました。

text\_CURATORS @ MORI ART MUSEUM



★  
**YOSHITOMO NARA**  
Born 1959 in Hirosaki, Aomori Prefecture, Japan.  
Based in Tochigi Prefecture, Japan.

FASHION

## ファッションとのコラボレーション

草間彌生と村上隆はルイ・ヴィトンと、宮島達男はSOPHなどのファッションブランドとコラボレーションしています。村上にはさらに、ビリー・アイリッシュを起用したユニクロのキャンペーンやファッション・アイコンであるラッパーのカニエ・ウェストやデザイナーのヴァージル・アブローとの交流など、ファッション界からも常に注目される存在です。(徳山)

TIME

## 時間という概念を扱う

宮島は仏教的思想に基づく時間という概念を扱い、「時の海—東北」、《30万年の時計》など作品のタイトルでも時間という主題が明示されます。多くの作品では、複数のLEDデジタル・カウンターが異なった速度で変化する数字を表示し、個々が異なった時の流れを刻みます。杉本の代表作シリーズ「海景」は古代から現在、そして未来まで、常に不変の水平線が主題で永遠性という概念が扱われ、また映画館で上映作品一本分をシャッターを開放して撮影された「劇場」シリーズは、時間を内包した写真ということも可能です。また《時間の庭のひとりごと》では、江之浦測候所にある礎石や門などの歴史を追うことで時間を遡ります。(近藤)



★  
**HIROSHI SUGIMOTO**  
Born 1948 in Tokyo, Japan.  
Based in New York, USA.

SINGING

## 歌うアーティスト

展覧会場に入るとすぐに、爽やかな歌声が聞こえてくるのに気付くかもしれません。軽快なアコースティックギターのサウンドにのせて、原発を見に行った休日について歌っているのは、なんと村上隆、ご本人!なのです。また、展覧会のクライマックスには、杉本博司の映画作品《時間の庭のひとりごと》でも、何とも雰囲気のある歌声が聞こえてきます。もうおわかりでしょうか。そう、こちらも杉本博司ご本人の歌声です。アーティストは皆、こんなに歌が上手なのでしょうか? (熊倉)

ANTIQUÉ COLLECTOR

## 古美術コレクターであること

アーティストとしての活動と並行して、杉本博司がニューヨークで古美術商を営んでいたことは有名で、実物の古美術を取り入れた作品も発表しています。村上隆が約1,300点の自身のコレクションを大規模に紹介した「村上隆のスーパーフラット・コレクション」(横浜美術館、2016年)には、現代美術だけでなく古美術も数多く展示されていました。普遍的な芸術表現を追い求める両者にとって、歴史に淘汰された古美術の「美」が、作品制作の重要なインスピレーションとなっているのだといえます。(徳山)

PRIVATE MUSEUM

## 個人の美術館・アートスペースがある

「草間彌生美術館」(東京)、「李禹煥美術館」(直島)、杉本博司の「小田原文化財団 江之浦測候所」(小田原)、奈良美智の「N's YARD」(那須塩原)。「STARS展」の作家の多くには、自身の名前が冠名となった美術館や私設のアートスペースがあります。作家自身が建築デザインに関わっている場合もあり、それぞれの作品を鑑賞するための理想の空間が設計されています。各作家の芸術表現をもっと知りたいという人にはお勧めのアートスポットです。(矢作)

CHAPTER 2 Book Guide

READING LIST TO STARS

アシスタント・キュレーター 徳山拓一さんが選ぶ

草間彌生 推薦図書

『女ひとり 国際画壇をゆく』



ニューヨークに渡った直後の草間彌生の想いが本人の言葉で綴られています。...

『沼に迷いて』



1973年にニューヨークから帰国した草間は、詩や小説の創作に目覚めます。...

『Yayoi Kusama』



草間彌生が世界的なアーティストとして認められた2000年代初頭に出版された本書は、...

アシスタント・キュレーター 矢作 学さんが選ぶ

李禹煥 推薦図書

『出会いを求めて』



李禹煥の作品を理解したいと多くの書籍を読みましたが、その中でも彼の抱えていた問題意識を最も明瞭に示してくれた一冊です。...

『Lee Ufan: Marking Infinity』



グッゲンハイム美術館で開催された大規模な個展の図録です。李禹煥は日本と欧州を拠点に活動していたため、...

『From All Sides: Tansaekhwa on Abstraction』



「単色画」という韓国の抽象絵画運動を紹介した展覧会の図録です。李禹煥は日本現代美術の発展に大きく貢献しただけでなく、...

シニア・キュレーター 近藤健一さんが選ぶ

宮島達男 推薦図書

『宮島達男 解体新書』



宮島がデビュー当時から近年の活動までをインタビュー形式で語ります。国際的デビューを果たした1988年の前年に考案され、彼の制作の主軸となる「3つのコンセプト」の誕生に関する逸話が興味深いです。...

『宮島達男 Art in You』



水戸芸術館での同名の個展の公式単行書として発行されたもので、「邂逅」「内省」「共生」「死」「未来」というテーマで、宮島が自身の活動を述べます。...

『Tatsuo Miyajima』



宮島達男の初期の個展の図録で、リン・クックが論考でその壮大な世界観を丁寧に解説しています。宮島のベルリン滞在時のインタビューに基づいた論考も掲載され、作家の当時の思想を読み解くこともできます。...



6つの展示空間とは別に設けられたアーカイブ展示。壁面を飾る年表とショーケースの資料の充実ぶりにどれだけ時間を費やしても興味尽きない。

アシスタント・キュレーター 矢作 学さんが選ぶ

村上隆 推薦図書

『特集：TOKYO POP』



村上隆が自身の芸術観を提示した初の試みであり、彼の思想の原点を理解する上で欠かすことのできない一冊です。「幼児性」「ヒエラルキーが解体された社会」「アマチュアリズム」というテーマからバブル期に成熟した日本文化の解説を試みています。...

『スーパーフラット』



「スーパーフラット」という概念を解説するための必読書です。「私たちのリアリティはどこにあるのか？」という問い掛けから、自身が生きる文化的土壌から、世界に通じる新たな価値体系の創出を目指す村上の意欲が垣間見えます。...

『リトルボーイ』



ニューヨークのジャパン・ソサエティ・ギャラリーで開催された展覧会の図録です。本展は、村上隆の芸術観を具現化した展覧会シリーズ「スーパーフラット三部作」の完結編であり、展覧会名は広島に投下された原子爆弾のコードネームにちなんでいます。...

キュレーター 椿 玲子さんが選ぶ

奈良美智 推薦図書

『I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME』



横浜美術館で開催された奈良美智の日本における最初の大型個展のカタログ。当時の奈良スタイルを代表する無邪気さと意地悪な視線を持つ子供たちの作品群が一覧でき、...

『ちいさな星通信』



弘前での幼少期から2003年までの人生やアートへの立ち位置的なものが、奈良さん自身の言葉で書かれた貴重な一冊。タイトルも、星の王子様的な視点で、宇宙の中の小さな星である地球に住んでいる自分、という立ち位置を確認している感じが伝わって、とても良いと思います。...

Yeewan Koon 『Yoshitomo Nara』



奈良美智というアーティストができるまで、そして旅人としての奈良さんの活動の軌跡を余すところなく伝えている一冊。香港大学の准教授で美術史家の官綺雲氏による奈良さんへの丁寧なインタビューに基づき、...

アシスタント・キュレーター 熊倉晴子さんが選ぶ

杉本博司 推薦図書

『苔のむすまで』



杉本博司さんの初の著書である本作。この書籍のもととなった雑誌連載を執筆するまでは、まとまった文章を書いたことがなかったという杉本さんですが、15年も前のものとは思えない程、現在でも全く色あせることのない文章が揃っています。...

『趣味と芸術 謎の割烹 味占郷』



想像上の割烹、味占郷の亭主となった杉本博司さんが、様々なジャンルの超豪華ゲストを、自身の古美術コレクションとお料理でおもてなしする雑誌の人気連載を書籍化したもの。美術や料理は、それぞれが独立した存在ではなく、人が生き語る空間を作り出すものなのだということがよくわかる一冊。...

『私の履歴書 杉本博司』



ご存知日経新聞の名物コラムにも、杉本博司さんが登場されています。東京の下町で育った幼少期、ご両親のこと、現代美術作家を志したきっかけや、その後の現在まで続く活動についてなど、様々な逸話が書かれており、アーティストとしてだけでなく、人間杉本博司についても垣間見ることのできる大変興味深いコラムです。

アーカイブ展示からキュレーターが厳選！ STARSをもっと深く知るための18冊

様々な資料や本や図録などを通して6人のアーティストたちがいかに世界で評価されてきたかを解き明かすアーカイブ展示。その中から森美術館のキュレーターに「これこそ必読！」と考えるお薦め本を選んでみました。

text CURATORS@MORI ART MUSEUM

MAM CURATORS' RECOMMENDED BOOKS



CHAPTER 3 | Interview

# ART & LIFE, NOW & THEN

## 美術史の視点でたどる日本の住まいと アートとの関係、いまむかし。

美術館やギャラリーで、あるいはプライベートな空間で、現代アートと接する機会が増えてきた今日この頃。そもそも日本人のアートとの付き合い方は、時代によってどのように変遷してきたのでしょうか？ インディペンデント・キュレーターの岡部あおみさんに聞きました。

お話を伺った人

岡部あおみさん

インディペンデント・キュレーター 仏ソルボンヌ大学修士、ルーヴル学院第三課程修了。専攻は近現代美術史・ミュージオロジー。武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科教授を経て、現在は数々の美術展の企画に携わる。2014～2020年の間、国際交流基金・パリ日本文化会館アーティストディレクターに就任、同館で「内藤礼」展、「米田知子」展などを手がけた。著書に「アートが知りたい―本書のミュージオロジー」など。

—暮らしの中へのアートの取り入れ方は、日本と欧米とでは違いがあるように思います。歴史的に見てどんな違いがあるのでしょうか？  
岡部 (以下 O) 日本の居住空間は、伝統的に木造家屋です。室町～江戸初期に書院造りが確立し、そこには床の間があり、掛軸をかけ、花を飾るようになりました。明治以降も、一般的な住宅にはたいてい床の間がありました。床の間とは要するに展示空間なのです。そして、床の間に何を飾るかといえば、もちろん自分が好きな掛軸をかけるわけですが、それ以上に、その日迎えるお客さまが誰であるか、季節はいつか、面会の目的は何かということも考慮に入れて掛軸を選んだのです。だから、掛軸は1点をかけっ放しにするのではなく、TPOに応じてしょっちゅうかけ替えていた。床の間は来訪者を喜ばせるため場所、ハレの場。つまり日本の昔の住まいは、家の中に小さな美術館があるようなものでした。対して欧米では、自分の愛蔵品を飾り、披露するという考え方ですね。来客に合わせて美術品を変えるようなことは基本的にはなく、それよりも、代々先祖から受け継いできた美術品で壁や空間を埋め尽くしたわけです。  
—日本家屋と西洋建築の構造の違いも影響しているのでしょうか？

O その通りです。西洋の家は基本的に石造りで、壁がむき出しなのでとても寒いんですよ。だから壁に分厚いタペストリーをかけるのです。ゴブラン織などのタペストリーは芸術品であると同時に、防寒の役目も果たしていました。そうした環境条件もあって、壁面を絵画で埋め尽くす習慣が定着したのではないのでしょうか。それに対して伝統的な日本建築は木と紙でできています。襖や障子の面積が大きく、壁面が少ない。壁面に絵を飾るという発想が根付きにくかったのです。もちろん、庶民にも買える浮世絵を長屋の壁に貼っておくという程度の楽しみ方はありましたが。壁面の代わりに果たしたのが床の間だった。美術を暮らしに取り込む行為は、自然と日本の室礼の中に組み込まれていたのです。  
—戦後、伝統的な和風住宅が減少し、日本人の生活は西欧化しました。アートとの付き合い方も変わりましたね？  
O 住宅が洋風化するにつれて、床の間の伝統が徐々に失われました。しかし、洋風の家に住むようになったからといって、絵画を飾るようになったというわけではないですね。家の様式は変わっても、習慣まで急に変えることはできませんから。たとえばフランスでは親から子へ美術品を受け継ぐのが日本以上

に当たり前だし、仮に自分で家を新築したとしても、ガランと空いた壁面に美術品を飾りたくなるものです。パリには「ドゥルオー」など一般にもよく知られたオークション会場があって、ほとんど毎日何かしらの競売が行われています。宝飾品、家具、絵画、あらゆるものが出品され、誰でもふらりと立ち寄って下見ができます。デパートに買い物に行くような気軽さでアートをビットする。生活とアートとの距離が近いことが感じられます。  
観に行く大規模アート、家時間を潤す小さなアート。  
—しかし一方で、ここ数年日本でも現代アートの受容が活発です。  
O 床の間に掛軸という暮らしの一部の富裕層しか実現できなくなってしまいました。ここ20年間でアートに接する一般の人たちは増えたと思います。直島を皮切りに、2000年に新潟県越後妻有で「大地の芸術祭」が始まったのが大きい。都会から離れた場所が現代アートが受け入れられるのかと正直半信半疑でしたが、結果は大成功。翌年には「横浜トリエンナーレ」、そして「愛知トリエンナーレ」へと広がり、地方都市でのアート活動が活況を呈します。ホワイトキューブでは

ない場所でもアートと出会い、旅にアート観賞が組み込まれ、時にはアーティストの制作に携わることもできる。この形式はお祭り好きの日本人にとってもフィットしたのでしょうか。  
—アートの裾野が広がった一方、家の中のアートから、外に出かけて観に行くアートへと変化したのでしょうか？  
O その両輪だと思います。ごく最近では、自分がいいと思う作品を身銭を切って購入し、ささやかでも身近に置いて楽しむ若い層が徐々に増えています。投資目的ではなく、自分の自由になるお金の範囲でアートを入手する方が増えるのは嬉しいですね。アートは人生に豊かさや喜びを与えてくれるものですから。またコロナとの共存を余儀なくされた時代に、家時間を充実させるため居住空間にアートを置きたいという意識が高まるかもしれません。しかし、いいものを買うには数を見ることが大事。価格の相場もだんだんわかってきます。だから美術館やギャラリーに足繁く通って目を養うといいでしょう。六本木には「森美術館」があり、その周辺には現代アートギャラリーが多数ひしめいています。この界隈をぐるっと一回りするだけで、巨匠アーティストから、新進気鋭の無名作家まで総ざらいすることができます。

text &amp; edit\_Mari Matsubara

## CHAPTER 4 Interview

NEW PLATFORM FOR  
CONTEMPORARY ART  
現代アートのプラットフォーム、最新事情。

オンラインやSNSの発達によって、現代アートへの接し方、買い方、支援の形が変わってきているようです。その変化を支えている新しい現代アートのプラットフォームについて、「美術手帖」総編集長の岩淵貞哉さんに話を聞きました。

## ArtSticker

スマホやウェブからアーティストを気軽にサポートする画期的なプラットフォーム。気に入った作品に金額に応じた「スティッカー」を貼ることで、アーティストを直接支援できる。展覧会情報や作品のロケーション情報、イベントや展覧会のチケット機能も完備。iOS、Androidでアプリを無料ダウンロードできる。●<https://artsticker.app/>

## 2G

NANZUKAによる「ギャラリー」、ファッション・キュレーター小本「POGGY」歴史とディテール・インターナショナルによる「コンセプトショップ」、メディアコム・トイによる「アートトイ」が融合した新形態の店。NYベースのSnarkitectureによる内装も話題。●渋谷区宇田川町15-1 渋谷バルコ2F ☎03-6452-5003 11:00~21:00 不定休

## OIL by 美術手帖

美術専門誌「美術手帖」が運営するアートのECサイト「OIL by 美術手帖」の実店舗。ギャラリースペースと物販に加え、渋谷の茶屋店「GEN GEN AN」の様々なお茶とドリンクを揃えたカフェも併設。気軽にアートに触れ、購入できる場を提供している。●渋谷区宇田川町15-1 渋谷バルコ2F ☎03-6868-3064 11:00~21:00 不定休

## 三越コンテンポラリーギャラリー

画廊を構える老舗百貨店として歴史のある「日本橋三越本店」に、2020年3月現代アート専門のギャラリースペースが誕生。従来の画廊と比べ、新しい美術作品や、同時代のアーティストを積極的に紹介している。193㎡の空間は奈良美智の私設美術館などを手がけた石田建太朗の設計。●中央区日本橋室町1-4-1 日本橋三越本店6F

## SBIアートオークション

20世紀以降の現代アートを扱うオークション会社で唯一の存在。8月コロナ禍でのライブ配信型オークションは好評を博し、10月3日にはその第2弾を開催。10月31日は代官山ヒルサイドフォーラムで「Modern & Contemporary Art Vol.40」を開催。STARS展の作家の作品も出品予定。下見は28日から同会場。●[www.sbiartauction.co.jp/](http://www.sbiartauction.co.jp/)

## CADAN有楽町

「日本現代美術商協会」が今年7月に開いたギャラリースペース。オフィスや店舗が立ち並ぶ丸の内角地に面した1階は入りやすい雰囲気。協会メンバーが持ち回り企画展を開催。●千代田区有楽町1-10-1 有楽町ビル1F ☎070-6464-1438 11:00~19:00 (土日祝~17:00) 月曜休み (祝日の場合は翌日) <https://cadan.org/cadan-yurakucho/>

— 現代アートの受容のあり方が変わってきていると聞きますが。岩淵 (以下I) 現代アートのコレクターが一部の富裕層やコアなファンに限られた時代から、普通に会社勤めするような人も身の丈にあったアートを買って楽しむライフスタイルが徐々に定着しているようです。その背景にはSNSやオンラインの発達があるでしょう。予算は少額でも好きな作品を買い、ギャラリーや美術館巡りをする若い人たちが情報を発信し、交換しあうことでネットワークが構築され、現代アートを生活に取り入れやすくなりました。こうした潮流を支える新しいプラットフォームも登場しています。

— たとえばどんなものですか？

I 「スマイルズ」の遠山正道氏とクリエイティブ集団「PARTY」が立ち上げた「ArtSticker」は、サイトにアップされた作品に対して有料の「スティッカー」を貼って支援ができます。スティッカーは120円から購入可能なので、作品の購入は躊躇してしまう人も、支援する気持ちを直接作家へ届けられるという仕組みが画期的です。遠山氏はこの試みを「アートの民主化」と言っています。また、トイとファッションの融合という点で注目したいのが「2G」。このギャラリーを併設したコンセプトショップは、企画展と運動してアーティストとコラボした限定品のアートトイやアパレル商品を開発し、爆発的な人気を呼んでいます。プロダクトのクオリティーは非常に高く、買いやすい。アートトイやTシャツなどの購入を通して、若い人たちが現代アートに触れる機会になっています。そんなお店が渋谷バルコに入っているという点も素晴らしいですね。同じフロアに「OIL by 美術手帖」もあります。こちらは雑誌「美術手帖」が昨年4月に立ち上げたECサイトの実店舗で、サイトには70あまりのギャラリーが出店しています。ギャラリーへ出向いてプライスリストを見せてもらわずとも、画面上で公開された価格を比較しながら作品を買えるし、その場で決済できるから地方の人には特に便利です。実店舗では、ギャラリーとショップとカフェを併設して、洋服を買って来た人が気軽にアートに触れられる場所になっています。

百貨店の画廊の中で積極的に現代アートへと舵を切ったのが「三越コンテンポラリーギャラリー」です。これまで以上に若い層に訴求できますし、長年の顧客にとっても国際的な市場で流通している現代アートなら、セカンダリーマーケットが底堅いとも考えられます。今年3月にオープンした空間は、かつての百貨店画廊にありがちなピクチャーレールなどを排して、展示空間として成立しています。

従来、日本で開催されるアートオークションの多くは近代美術どまりでしたが、「SBIアートオークション」は現代アートを中心に扱って注目です。8月のライブ配信オークションはかなり盛況だったとか。下見もオンラインで、誰でも自宅から気軽にビットできます。オークション会場では、これまでにない若い層を見かけるようになりました。また「小山登美夫ギャラリー」や「タカ・イシイギャラリー」など、日本を代表するギャラリーがメンバーとなっている協会が企画を行うスペース「CADAN 有楽町」も話題です。メンバーのギャラリストが持ち回りでテーマを設定し、キュレーションする企画展を行っており、生きのいい作品にまとめて出会う場所となっています。

美術館での大規模な企画展から、スマホで見つけるアートまで、形態が多様化しながら現代アートがますます注目を浴び、アートシーン全体が盛り上がりつつある現在の状況は好ましいことだと思っています。

お話を伺った人

岩淵貞哉さん

1975年生まれ。2008年より美術専門誌「美術手帖」編集長、昨年より総編集長・美術出版社取締役役に就任、同時に同誌が運営するアートECサイト「OIL by 美術手帖」立ち上げに携わる。現在は現代アートのビジネスソリューションに力を注ぐ。

子どもにとって、あそびは人生のかけがえないエッセンス。「ごっこあそび」で対話力や社会性を学ぶなど、あそびを通して、心身共に自立した大人になるために必要なことを習得するのだと思います」と、ボーネルンド副社長を務める中西みのりさん。子ども時代には、食べることや眠ることと同じように、あそぶことが大切——。ボーネルンドが創業から一貫して主張してきたことを、5歳になる娘の子育てを通して、疑いのない事実として確信するようになったと話します。ボーネルンドが大切にしている「あそび」とは、子ども自身の「やってみよう」から始まる体験のこと。テレビゲームなどスイッチを入れるだけで受動的に物事が進んでいくものでも、また、「やりなさい」と指示されるものでもなく、子どもの能動的かつ自発的な体験を重視しています。「自分で選んでやることだからこそ、生き生きと取り組み集中できるのだと思います。たとえば転んで足を擦りむいて痛い思いをしても、今度はこうしてみよう、と次につなげることができるのではないのでしょうか」

大型玩具の輸入から事業を始めたボーネルンドは、現在はあそび道具の提供やあそび環境づくりへと事業を拡大。全てにおいて、子どもの主体性を育むことを重視しています。たとえば、

体を使うあそび場では、子どもの好奇心を刺激し、多くのからだの動きを生み出すよう、遊具の機能、配置、ベンチや壁面グラフィックまで考えぬいています。

「運動が今まで苦手だと思っていた子どもが、ボーネルンドの遊び場では喜んでからだを動かすので驚いた!」という感想をよくいただきます。運動を強制せず、自発的にやりたくなるような工夫をしているからだだと思います。「たくさんからだを動かしてあそんだ帰り、車に乗った途端に爆睡しました!」と写真を送ってくださる方もいました(笑)。

安全を理由に公園から遊具が撤去されるなど、日本の子どもたちがあそぶ機会はどんどん減ってきているとされています。さらに、コロナ禍で外あそびの時間も減少するなか、多様なあそび環境作りと機会の創出により力を入れたいと、中西さんは続けます。

昔は良かったと懐かしんでも戻ることにはできません。専門家とも協力し、時代や環境のニーズに合わせて思いきりあそべる場所や機会を少しでも多く作っていきたいですね。あそびを通して未来を担う子どもたちの健やかな成長に寄与することは、健全な社会を作る一助にもなります。子どもたちが存分にあそべる環境をつくることは、大人の使命ではないでしょうか」

## BørneLund Story 4

あそび環境づくりを通して  
子どもの健やかな成長を育む

知育玩具のバイオニア「ボーネルンド」の取り組みをご紹介します。企画の第5弾では、中西みのり副社長にインタビュー。自らの子育てを通して強めたあそびに対する思いやあそび環境づくりの大切さ、今後の展望を語っていただきました。

text\_Kyoko Takahashi

あそび環境の研究、企画開発からデザインまで、トータルに手がけています。現在日本国内に、3万5千カ所以上のあそび場を提供。写真は、デンマークコンバン社の多様な遊具で楽しめる「モーヴィ下関」。



## Information

ボーネルンドショップ  
六本木ヒルズ店

店内にあるあそび道具の多くを、実際に手に取って試すことが可能。専門のインストラクターが常駐し、あそび方の説明や、あそび道具選びのお手伝いもしてくれる。同フロアの親子休憩室もボーネルンドがプロデュースした。東京都港区六本木6-10-2 六本木ヒルズビルサイド B2F ☎03-5770-3390 営11:00~19:00 無休

※コロナウイルスの影響に伴い、一部オペレーションを変更させていただく場合があります。

問合せ先:ボーネルンド  
[www.bornelund.co.jp](http://www.bornelund.co.jp)

Voice from  
BørneLund

中西みのり (ボーネルンド副社長)

マーケティング、商品、企画・設計・デザイン部門を統括。1974年生まれ。1992年から5年間、ロンドンの大学でマーケティング、インテリア・建築デザインを学ぶ。1999年にボーネルンド入社。コロナ禍でも子どもが遊ぶ機会を奪ってはならないと、世界中のパートナーと協働中。





質問  
コロナ禍の際に、  
哲学というのは  
どういう風に役立つ  
のでしょうか？  
ロックダウンの時あなたが読んだ  
哲学書は何でしたか？

哲学は、私たちが物事をどう考えるかの枠組みを提示します。個人レベルや制度の中でどんな行動をとるかは、その人の思考の表出であり、体現されたものなのです。考え方が間違っていたり、物の見方が誤った方向に導かれていたりすると、行動も見当違いのものになります。今日の状況において、哲学はラディカルで新たな国境を超えた連帯を築く役割を担うことができると考えています。科学、経済、政治、さらには文化といった複雑なシステムが相互作用し協力することで、新たな人間社会を見いだすことができるでしょう。物質的な富の獲得を人生の目的と考えるネオリベラリズムは、歴史的な出来事によって反証されました。今回のパンデミックは、すべての大陸のあらゆる人が同じ難題を突きつけられるという点で、人

類史上初めての出来事だと言えます。パンデミック・ショックという目に見えない横断幕のもと、人々は連帯し、そのことが人間は理性的な動物であるという認識を問い直すことになるかもしれません。そのプロセスにおいて、哲学が必要となるのです。ロックダウン（都市封鎖）の間に、『Moral Progress in Dark Times（訳者訳：苦悩の時代の道徳的進歩）』を上梓しました。読んだ本の中で強く印象に残っているのは、サステイナブルな農業技術に長けたコロンビアの先住民コギ族について書かれた、ルーカス・バックホルツの著書です。私は、地球上にある様々な地方文化を同期させ、グローバルでコスモポリタンな人類像を見出す必要があると考えています。アジアの多様な伝統はもちろん、アフリカも含めてです。



現時点におけるSNSのあり方はむしろ問題を悪化させていて、解決の手立てにはなっていません。コロナ禍の中、何人かの衛生の専門家、政治家、経済学者と定期的に話をしていますが、彼らの話を聞くほどに、ウィルスに関する流言がいかにも危険であるかを実感しています。端的にいうと、TwitterをはじめとするSNSは早急に、理性的で科学的な議論が助長される別のプラットフォームに取って代わられる必要があります。専門家ではないユーザーが、現在のメジャーなSNSにおいて、パンデミックに関する虚偽情報と正しい情報を見分けるのは不可能です。そのことが、陰謀説や極左派や極右派の急進化を生じさせています。その事実に対して、SNS企業は責任を持つべきだと思います。



質問  
ニュースやSNSを見ていても、  
政府、専門家や医師たちの見解が  
バラバラで何を信じていいのか、  
素人にはわかりません。  
信頼にたる情報は  
どうやって手に  
入れられるの  
でしょうか？

interview\_Kohei Saito  
translation\_Yuki Itai  
photo\_Yuri Manabe

Pre-Interview

# INNOVATIVE CITY FORUM 2020

Markus Gabriel

ボン大学教授・哲学者 / 1980年生まれ。史上最年少の29歳で200年以上の伝統を誇るボン大学の正教授に就任。ポストモダニズム以降の「新実在論 (new realism)」の旗手として注目される。2013年に刊行された『なぜ世界は存在しないのか (原題: Why the World Does Not Exist)』は、哲学書としては異例の世界的ベストセラーとなった。



## 哲学者 マルクス・ガブリエル教授に訊く コロナ禍の時代を どう生きるか？

「20年後、私達はどのように生きるのか？」をテーマに、毎年世界中から多彩なスピーカーを招待し、都市の未来について多角的な議論を展開してきた国際会議「Innovative City Forum」。コロナ禍の今年は、哲学者のマルクス・ガブリエル教授らと交えて、オンラインで実施される予定です。そこで11月の議論に先立ち、斎藤幸平・大阪市立大学経済学研究科准教授を聞き手に、パンデミックの時代を生きる指針をめぐって、ガブリエル教授にお話をうかがいました。

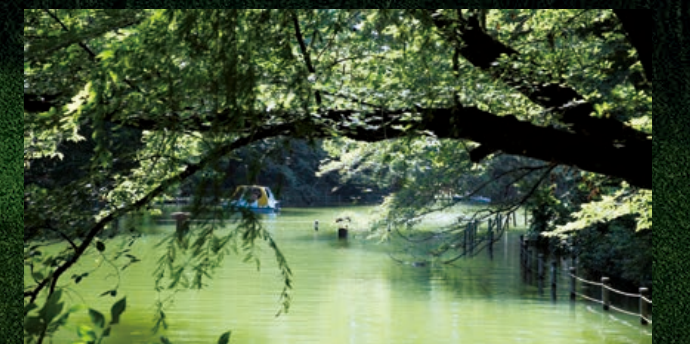
斎藤幸平

interviewer

大阪市立大学大学院経済学研究科准教授 / 1987年生まれ。『大洪水の前に』マルクスと惑星の物質代謝』でカール・マルクス研究界最高峰の賞、ドイッチャー記念賞を日本人初・歴代最年少で受賞。編著にマルクス・ガブリエル教授らとの対談集『未来への大分岐』など。

質問  
パンデミックのせいで帰省もできないし、  
家族や友達とも会えない。大学はずっと  
オンラインで、孤独だという声もあります。  
科学者たちは、パンデミックを  
抑えるためには、それが必要だといっています。  
科学者に従って、  
耐え忍ぶのが  
倫理的な生き方  
なのでしょうか？

人々を孤立させ、オンラインでの活動のみを強制するのは間違っています。もちろん、ウィルスの拡散を抑制するために、責任ある行動をとる必要があることは言うまでもありません。ウィルスを野放しにするのは危険すぎます。一方で、倫理的な選択には、なるべく早くデジタルではない現実環境で会うことができるように、社会を再構築することや学校を再編することなどが含まれます。コロナウィルスが、ポリオや根絶された他の病原菌のように、いつの日かなくなるとは考えない方がいいでしょう。HIVや未だに終わりのない他のパンデミック同様、共存していくしかないのです。学校のオンライン授業を長期化させるのは、無責任すぎます。オンラインで本質的な学びをサステイナブルに行うには、無理があるからです。





# TALK ABOUT STYLE

身も心もブラッシュアップ! 六本木ヒルズで新しい秋を始めよう

photo\_Kazuya Aoki  
stylist\_Keisuke Shibahara (men's),  
Kayo Yoshida (women's)  
text\_Ayumu Kinoshita (POLYVALENT)  
edit\_RCKT/Rocket Company\*

最新ファッション情報をお届けする連載企画「CLOSE UP」。今

回は特別編として、六本木ヒルズから最旬スタイルをお届け。ポ

ジティブな気持ちは、まず装いから。ステイホームも外出も、気

分が上がるスタイリングで身も心もリフレッシュ! 肌触りや動

きやすさなど、着ていて心地よいことも重要ポイントです。



モダンな洗練スタイルを提案する UNITED ARROWS は、着心地のよさと上品さを兼ね備。ソフトでなめらかな肌触りのニットパーカーに、ウエストゴムのコーディュロイパンツ。外出時にはデザートブーツで足元も軽快に。ニットパーカー ¥32,000 (税込 ¥35,200) / パトナー フォー ユナイテッドアローズ、Tシャツ ¥6,000 (税込 ¥6,600) / ユナイテッドアローズ、パンツ ¥20,000 (税込 ¥22,000) / セラードア、シューズ ¥24,000 (税込 ¥26,400) / クラークス オリジナルス フォー ユナイテッドアローズ (すべてユナイテッドアローズ 六本木 03-5772-5501 / 六本木ヒルズ ウェストウオーク 2F・3F)

ドレスブランドが一堂に揃う BEAMS のセットアップスタイル。クラシカルな印象ながら、ストレッチ素材でカジュアル感も加味。ジャケット ¥54,000 (税込 ¥59,400)、パンツ ¥29,000 (税込 ¥31,900) / チルコロ 1901、ニット ¥22,000 (税込 ¥24,200) / グランサッソ、シューズ ¥85,000 (税込 ¥93,500) / ボードイン アンド ランジ、バッグ (H26 × W15 × D8cm、10月下旬発売予定) ¥24,000 (税込 ¥26,400) / トフアンドロードストーン、チーフ ¥6,800 (税込 ¥7,480) / フランコ パッシ、ソックス ¥3,000 (税込 ¥3,300) / プリッラ ベル イル グスト (すべてビームス 03-5775-1623 / 六本木ヒルズ ウェストウオーク 2F・3F)

ジレを主役にしたメンズライクなコーディネートは、モードで上品なアイテムが揃う ESTINATION から。足元はあえてフラットにすることで、さりげなくラフな印象に。シャツ ¥50,000 (税込 ¥55,000)、ジレ ¥120,000 (税込 ¥132,000) / エストネーション、パンツ ¥32,000 (税込 ¥35,200) / コラム、シューズ ¥78,000 (税込 ¥85,800) / ジェイダブリュ アンダーソン、バッグ (H18 × W25 × D13.5cm) ¥46,000 (税込 ¥50,600) / ユゼファイ、フレスレット (24KGP) ¥21,000 (税込 ¥23,100) / ベリーヌ タベルニティ (すべてエストネーション 0120-503-971 / 六本木ヒルズ ヒルサイド 1F・2F)

フェミニンなデザインが効いた洋服が揃う DESIGNWORKS deuxcotes は、カーディガンをトップスとして着る、リラックス感と大人の肌見せを両立したスタイルを提案。ニット ¥72,000 (税込 ¥79,200)、スカート ¥42,000 (税込 ¥46,200) / デザインワークス、ブーツ (H8cm) ¥72,000 (税込 ¥79,200) / ベリーコ、バッグ (H29 × W21 × D8cm) ¥100,000 (税込 ¥110,000) / ビエール アルディ、ネックレス (ブロンズ×ゴールドメッキ) ¥34,000 (税込 ¥37,400)、ピアス (ブロンズ×ゴールドメッキ) ¥34,000 (税込 ¥37,400) / モダン ウィーヴィング (すべてデザインワークス ドウ・コート 03-5786-9831 / 六本木ヒルズ ウェストウオーク 3F)

## THEME 1 ぶだんの外出にも、ドレスリーな要素をプラス

映画や外食、ショッピングさえも特別な今。外出の日には、ワンランク上のドレスリーな装いを楽しもう。クラシカルなアイテムを上品にカジュアルダウンさせたスタイルを、秋の新定番に。

THEME 1  
*Hang Out*

THEME 2  
*Stay Home*

## THEME 2 心地よさと自分らしさを満喫する、洗練の家時間

お家やワンマイルの装いでは、着心地のよさとエレガントなデザイン性を兼ね備えたアイテムを取り入れてみよう。洗練された装いなら、自宅でもファッションの楽しさを再発見できるはず。

2020  
10.31-11.09

33rd TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL  
Roppongi Hills / Ex Theater Roppongi / Tokyo Midtown Hibiya, Hibiya Step Square  
Tokyo International Forum and Other Venues in Tokyo

tiff-jp.net | #TIFFJP

Bloom!  
信じよう、映画の力

第33回 東京国際映画祭

TOKYO  
INTERNATIONAL  
FILM  
FESTIVAL

2020

10.31-11.09

今回の訪問先



SUPERSHIP  
GROUP

COMPANY PROFILE

Supership ホールディングス株式会社

TYPE: データテクノロジー

PLACE: 虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー

未来への挑戦者たち

# @HILLS

## ミライリアル幸せを、 デジタルの力で創る会社

text\_Kazuko Takahashi  
photo\_Koutarou Washizaki

企業の経営戦略の立案や業務の効率化を行う上で、データの分析、いわゆるデータアナリティクスが欠かせなくなっている。顧客の興味や関心をどうつかむか。ターゲットに合った情報をいつどこで発信するか。事業改善や販促のヒントをいかに発見するか。こうしたマーケティング施策における課題においては、消費者の属性や購買履歴などのデータ分析がカギとなる。

Supership グループは、親会社 KDDI の持つ膨大なデータとデータアナリティクスの事業を活用したデータコンサルティングやマーケティング施策、AI 構築、広告配信プラットフォームなどを広告主やメディアに提供。デジタル広告の効果を最大化するサービスをワンストップで実現している。

「中核会社 Supership を始め5つの子会社、関連会社1社のデジタルスキルを掛け合わせた“共創”により、企業のデジタルトランスフォーメーションを支えています。メンバーは500名を超え、半数近くがデータサイエンティストやデータアナリストなどの技術者、加えてコンサルティングファームや大手 IT 企業、広告代理店の出身者、弁護士など各分野に精通するプロフェッショナルが集まり、強みを活かしながら価値創造に取り組んでいます」

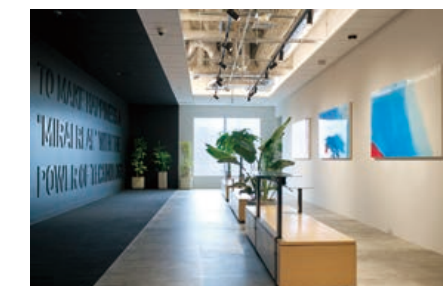
サービスの提供先は、資生堂、富士通、楽天など他業種に及ぶ。

「扱うデータは個人情報として特定できない粒度に変換し、プライバシーの保護を徹底。広告が不適切な場所に掲載されることによるブランド毀損への対策や、不正広告

や広告詐欺の排除、ユーザーを不快にする配信フォーマットへの対策など、デジタル広告配信のリスク回避にも貢献しています」

今年6月には事業拡大に伴う人員増加と共創による生産性や創造性の向上を目指し、青山から虎ノ門ヒルズビジネスタワーに移転。同時にグループアイデンティティの再構築を行い、「ミライリアル幸せを、デジタルの力で創る。」という組織の指針や、“未来志向”“チャレンジ”などをキーワードとする4つのバリューを掲げた。

「私を含めてベンチャー精神旺盛なメンバーがチャレンジを繰り返してきました。まず自分たちがワクワクできる未来を想像し、次々と具現化し、社会に実装していけたらと思っています」



“共創”を促すオフィス設計。「コロナ以前」から出社とリモート勤務を自由に選べる働き方を実現。



稲葉真吾さん  
Supership ホールディングス  
代表取締役 CEO

トランスコスモス、グリーを経て2015年 Supership 入社。インターネット業界における BtoC 事業やプラットフォーム事業など、キャリアの多くを新規事業の立ち上げ・推進に傾け、実績を重ねる。19年12月より現職。

「チャレンジの成否は打席に立つ回数でものを言う。自ら率先していきたい」と、稲葉さん。背景の絵は「異なる種の共創」をイメージしたコヨーテとアナグマ。

・スバニッシュ鉄板焼

### Plancha ZURRIOLA

ブランチャ スリオラ



伝統の鉄板焼きを  
モダンスバニッシュに

ミシュラン2つ星を獲得する銀座のモダンスバニッシュ『ZURRIOLA』が手がけるブランチャ（鉄板焼き）専門店。スペインでは定番のブランチャを始め、カウンターの鉄板で鮮やかに調理する本格スバニッシュは単品でもコースでも味わえる。

東京都港区虎ノ門 1-17-1  
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー3F 虎ノ門横丁  
11:00～15:00 (L.O.14:00)  
17:00～23:00 (L.O.22:00)  
土日祝 11:00～15:00 (L.O.14:30)  
16:30～22:00 (L.O.21:00)  
定休日：なし 座席数：29  
03-6550-9607

日本の食材を再発見する“ひと皿”

# Food Thinkers 17

地元だけで栽培され広く知られることがなかった伝統野菜や新しい洋野菜など、日本の野菜が面白い。多彩な野菜の持ち味を見事に表現する調理法がブランチャだ。

photo\_Takahiro Imashimizu edit & text\_Jun Okamoto

RECOMMENDATION



スペイン北東部アラゴンのスッキリ辛口のロゼワイン。軽やかな味わいで野菜との相性が抜群。可能な限り自然に近い栽培方法で育てたガルナッチャ100%。繊細な香りを持ちエレガントな「ブレカ・ロゼ」

今回の食材 ③

## 白ナス

皮が淡白色のなすの総称。丸ナスや長ナスなど形は種々だが、アクが少なく、皮はやや硬めだが果肉は柔らかい。そのため火を入れるとトロトロの食感になる。



九州産クリームチーズのバスケースケーキ。あえて焦がさないスタイルで中心はとろりと柔らかい。



今回の食材 ①

## アカネ カブ

大根のように細長い形に育つかぶの一種。皮はきれいな赤色、切ると白いが赤い筋が入っている。水分量が少ないため煮ても崩れにくく、ほどよい食感がある。



今回の食材 ②

## 丸ズッキーニ

かぼちゃの仲間のズッキーニだが、完熟させずに未熟果を食べる。丸ズッキーニは種類豊富で色や味わいが少しずつ異なり、細長いズッキーニと比べて白い果肉部分が多い。



## 野菜だけの水分で素材の旨みを上手に引き出す ルッコラステーションの 野菜とグリーンオリーブの バーミキュラ調理

信頼するファームから届いた野菜を10種類以上使った人気メニュー。バーミキュラの鍋にズッキーニ、なす、かぶなどの季節の野菜、豚の脂、オリーブを入れ、鉄板の上で20分ほどゆっくりと加熱する。野菜の水分だけで蒸しあがるので味が凝縮し、それぞれの野菜から沁み出す旨みを交換し合う相乗効果もある。野菜本来の味と香りを前面に出したシンプルな調理法。写真は2名分。

## 食材をストレートに表現するスペインならではの鉄板焼き

店名のブランチャとはスペイン語で『鉄板焼き』という意味。ブランチャはスペインではとてもポピュラーで、食材の持ち味をシンプルに追及した調理法だ。モダンスバニッシュの名店『ZURRIOLA』ではこのブランチャを現代らしい解釈で提案する。カウンターに据えられた鉄板の前に立つのは平田シェフ。フレンチ鉄板焼きの『アヒル』でも腕を磨いたとあって、鉄板さばきも巧みなものだ。シンプルな調理法であるブランチャは素材勝負のため、扱う食材には強いこだわりがあるという。たとえば名物の

海老のブランチャは、駿河湾で水揚げされた赤海老と決めている。「身は小ぶりですがとにかく新鮮だから海老みそが素晴らしい」と平田シェフが満面の笑みで語るお気に入りだ。千葉のファームから届く野菜は、伝統野菜を始め驚くほど種類豊富だ。平田シェフが初めて出会う野菜もあるが「新しい野菜こそどんどん使ってみたくて思っています」と状況をアクティブに楽しんでる。熊や天ぶらと並び、素材が命の鉄板焼きは、海外産ではかなわない、何より新鮮な日本の食材が不可欠なのだ。

今回の料理人

### Hoji Hirata

平田耕示さん  
Plancha ZURRIOLA 料理長

30歳の時に突然「料理がやりたくなくて、料理業界へ転職した」という異色の経歴。フレンチを学び、鉄板フレンチの経験を生かして『Plancha ZURRIOLA』のオープンと共に料理長に就任。「料理はもちろんだ。レストランでの時間も楽しんで欲しい」とカウンターでの会話にも力を入れている。

# Poliform

www.actus-interior.com/poliform

ACTUS EURO STUDIO | Poliformの日本旗艦店は、アクタス新宿店、心斎橋店にございます。

取扱店舗：アクタス新宿店、青山店、京都店、心斎橋店、六甲店、福岡店ほか、日本全国のライセンスパートナーショップ。お問い合わせ先 03-5269-3207(広報室)

# ACTUS





## 子どもたちに誇れるしごとを。

いつの時代も変わることはない、子どもたちが空想する夢の世界。「こんなものがあつたらいいな」「いつかきつとつくりたい」

私たちの夢や希望は、自然の中で身近な道具を使ってカタチにしたあの頃から、少しも変わることがありません。

ずっと思い描いてきた未来を建造物に込めて、次の世代に伝えていく。

それが、私たち清水建設の「しごと」です。

SHIMIZU CORPORATION  
清水建設



## Walking into The Future with Augmented Reality

お話を伺いました——

川島優志さん  
Niantic アジア担当副社長

早稲田大学を中退後、2000年に渡米。ロサンゼルスでの起業、デザインプロダクション勤務を経て、07年にGoogleへ入社。13年、Googleの社内スタートアップとして発足したNiantic LabsのUX/Visual Designerとして参画、(Ingress)のビジュアル及びユーザーエクスペリエンスデザインを担当。2015年10月にNiantic, Inc.の設立と同時にアジア統括本部長に就任し、2019年に副社長となる。(Pokémon GO)では、開発プロジェクトの立ち上げを担当。

(Pokémon GO) や (Ingress) を通じてARの可能性を切り開いてきたNianticの川島優志さん。同社はコラボレーションを加速しARによって「世界を楽しく見せる」ことを目指します。その先にはどんな世界が待っているのでしょうか。

interview\_Ou Sugiyama text\_Shunta Ishigami photo\_Kaori Nishida

——Nianticさんはずっとリアルな空間にこだわられていたと思いますが、コロナ禍によってオフラインからオンラインイベントの場を切り替えるなど新たな取り組みが行われています。これからのエンタメはどこに向かっていくと思われませんか？

川島 (以下K) コロナの影響により、技術の使い方や考え方が変わりましたね。これまでは音や演出の質を上げるために技術が使われましたが、これからは遠隔のコラボレーションや多くの人に体験を届けるほうが重要になるでしょう。いま生まれつつあるイノベーションは、これまでより遥かに多くの人にエンタメを届ける革命的な進化を起こすかもしれません。ほくらも今年の「Pokémon GO FEST」をバーチャルで開催したことで、200万人を超える方々に参加いただきました。いずれ外出できるようになればリアルイベントに戻るかもしれませんが、この“寄り道”は有意義なものだと思います。そもそもNianticのプロダクト自体が、プレイヤーが寄り道することで新たな発見を得られるようなものですからね。

——先日発表されたPunchdrunkさんとの提携も、同じ未来を向いているのでしょうか。

K Punchdrunkも、イマーシブ・シアターを通じて現実空間に新たな体験をもたらしてきました。お互いの哲学や世界観へのリスペクトをもちながら、彼らとフィクションとノンフィクションの垣根を壊すような体験をつくってあげたいと思っています。ゆくゆくはすべての街角でゲームをプレイできるような仕組みをつくって、この世界をもっと生き生きとしたものにできたらなど。

——そのうえで、川島さんがこれまで取り組んできたARの果たす役割も大きそうですね。K ほくらちもゲーム開発を進めつつ、プラットフォームをつくっていくつもりです。並行してQualcommさんとARグラス開発のパートナーシップも結んでいて、ハードとソフト両面で新たな取り組みを進めていこうと思っています。クリエイターの方々に力を与えて街を自由な表現の場へ変えたいんです。

——街全体がクリエイターのキャンパスになるわけですね！エンタメだけでなく都市全体も変わっていくのでしょうか。

K これからのARは“ツール”になると考えています。

たとえば交通標識がすべてARに取って代われれば都市インフラを担えますし、どんなことを考えているのか伝えやすくなるコミュニケーションの手段にもなるかもしれません。コロナ禍を経て都市デザインのあり方も問われていて、車道を封鎖してもっと人や自転車が通りやすい道に変えている都市も増えていますよね。思えば最初にほくらちが(Pokémon GO)を発表したときに人が一気に街に出てきて迷惑をかけてしまったことがありますが、大都市になるにつれて街はたくさんの方が集まれる場所ではなくなってしまっていたわけで、Nianticも都市デザインや建築関係の方々からお声をかけていただくことも増えています。

——川島さんのお話を聞いていて、これからの日常がどんどん楽しくなりそうだなと感じました。K ARは世界を異なるチャンネルから楽しく見せてくれる技術だと思います。たとえ経済的に世界が悪くなっていったとしても、世界をもっと楽しく見る方法はつねにあるはず。世界はただ歩くだけでも新しい未来のきっかけをもたらしてくれるのですし、Nianticもみなさんと一緒に未来に向かって歩いていけたらと考えています。



英国発のイマーシブ・シアターPunchdrunkとNianticのコラボからは、テクノロジーとナラティブをかけた次世代型エンタメが生まれるはず。

# GO

# GRAND

## GRAND EXCURSIONS INTO FLAVOR

GRAND HYATT TOKYO  
STEAKHOUSE THE OAK DOOR

GRAND HYATT TOKYO  
03-4333-1234  
TOKYO.GRAND.HYATT.JP

GRAND | HYATT

### HILLS AREA WALKING GUIDE (35)



今回のルート 六本木〜虎ノ門

## adidas Runners Tokyo 岩崎志保さん 街を楽しむラン

リモートワークによる運動不足を、効率よく解消するには？  
アディダスのランコミュニティ (adidas Runners Tokyo) でキャプテンを務める岩崎志保さんに、街を楽しみながら鍛えられる、10kmのランコースを教えてくださいました。

SHIHO IWAZAKI

静岡県生まれ。大学時代からモデル活動を始める。様々なスポーツに取り組み、2016年 (adidas Runners Tokyo) の初代キャプテンに就任。コミュニティリーダーとして活躍中。また、ピラティスやヨガのインストラクターとしても活動する。Instagram : @shihoiwazaki



浪花家総本店

たい焼きで  
ランの栄養補給!

「しっかり走るなら栄養補給は重要です。バナナやおにぎりもいいのですが、たい焼きは炭水化物だからエネルギーになるし、胃に重たすぎないのでおすすめです。片手で食べられるし、一緒に走る人と分け合ってもいいですね」

強化スポット③

赤坂御用地の外周3kmは高低差があり、シリアルランナーにも人気。鍛えたい人は青山通りの裏手へ。



六本木トンネル

ウォールアートを眺めながら都会的な風景の中を走る

「ドラマや雑誌の撮影で、よくロケに使われるスポットです。ウォールアートを眺めながら走るのも、都心のランならではの楽しみ。このトンネルを抜けると、目の前に六本木ヒルズが現れます。ゴールはすぐそこ!」



SHARE GREEN  
MINAMI AOYAMA

グリーンいっぱい  
癒しの空間で小休憩

「カフェ、グリーン&フラワーショップ、オフィス、広場などを併設したスペース。広い芝生とても気持ちよく、リクライニングチェアもあるので、ランの休憩にもぴったり。ここで一息ついて、ラストパートへ!」

強化スポット②

江戸見坂は、緩やかな傾斜に加え階段もあるので、しっかり鍛えられる。ここではお尻の筋肉を鍛えよう。



強化スポット①

増上寺から東京タワーに向かう道は、ちょうどよい傾斜の上り坂なので、トレーニング効果もばっちり!



赤羽橋交差点

今日のランの記念に  
東京タワーとセルフイー

「都心のランは、東京タワーが見えると気分が上がります。赤羽橋交差点付近は、ベストフォトスポット。このあたりは東京タワーがきれいに見えるので、写真を撮るとならここ。ランの記念としてSNSにアップ!」

増上寺

東京マラソンをイメージして  
気持ちよく走り抜けよう

「前回の東京マラソンは、増上寺前の日比谷通りを抜け、東京駅前の行幸通りがゴールでした。このあたりは道が広いので、ラストパートがかけられるエリア。東京マラソンに参加したい方は、それをイメージして走ってみては!」

日枝神社

江戸時代に想いを馳せて  
大鳥居を過ぎたら残り4km

江戸城の鎮守として、江戸時代より多くの崇敬を集めている日枝神社。「ここで約6km。大きな鳥居を目印にがんばってください。疲れたら参拝に立ち寄りてひと息入れよう。」

edit\_Miho Matsuda  
illustration\_Natsuki Camino  
map\_Ryoko Yamasaki

※写真を撮るときには、交通ルールを守りましょう。通行する人への配慮もお忘れなく、楽しいランニングを。

Hyatt™ and Grand Hyatt™ names, designs and related marks are trademarks of Hyatt Corporation. ©2020 Hyatt Corporation. All rights reserved.



# 未来の歓びのために。

歓びに満ちた未来のために、今できること。

それは、安心して人が移動し続けられる、  
持続可能な社会を創り出すことだと、私たちは考えます。

輸入車においてクリーンエネルギー自動車  
登録台数No.1\*のBMWは、  
クリーンエネルギー自動車をもっと身近な存在にするため、  
「Edition Joy+」を新たに設定しました。

いつだって、会いたい人に逢いに行ける。  
どこだって、行きたい場所へ走って行ける。  
そんな、当たり前なことが自由にできる毎日を目指して。

BMWは、未来の「駆けぬける歓び」に向け、  
これからも走り続けます。

## BMW EDITION JOY+

クリーンエネルギー自動車は  
新たなステージへ。

**EDITION JOY+**  
FOR MORE INFORMATION



### 3



### X1



### i3



**BMW 320d xDrive Edition Joy+** 5,730,000円

**BMW X1 xDrive18d Edition Joy+** 4,710,000円

**BMW i3 Edition Joy+** 4,990,000円

JOY+ Value **-16万円**<sup>\*2</sup> 免税・減税額合計 **19万7,700円**<sup>\*3</sup>

JOY+ Value **-18万円**<sup>\*4</sup> 免税・減税額合計 **19万1,900円**<sup>\*5</sup>

JOY+ Value **-55万円**<sup>\*6</sup> 免税・減税・補助金額合計 **49万7,900円**<sup>\*7</sup>

**充実のアフターサポートを、納得のコストで。JOY of OWNERSHIP**

BMWでは購入後3年間の無償メンテナンスをはじめ、高品質かつ多彩なサービスを全モデルに標準付帯。

\*1: 輸入車における2011年12月～2020年6月のクリーンエネルギー自動車(電気自動車/プラグインハイブリッド自動車/燃料電池自動車/クリーンディーゼル自動車)の国内累計登録台数のうち、BMW対象モデルの合計台数、日本自動車輸入組合のデータをもとに自社集計。\*2: 2020年5月1日までの320d xDriveメーカー希望小売価格(消費税込、5,890,000円)との比較。\*3: エコカー減税(自動車重量税減税額)30,000円、グリーン化特例(自動車税減税額)27,000円、環境性能割(非課税額)140,700円の合計額。\*4: 2020年5月1日までのX1 xDrive18dメーカー希望小売価格(消費税込、4,890,000円)との比較。\*5: エコカー減税(自動車重量税減税額)49,200円、グリーン化特例(自動車税減税額)27,000円、環境性能割(非課税額)115,700円の合計額。\*6: 2020年5月1日までのi3メーカー希望小売価格(消費税込、5,540,000円)との比較。\*7: エコカー減税(自動車重量税減税額)36,900円、グリーン化特例(自動車税減税額)18,500円、環境性能割(非課税額)122,500円、EV補助金320,000円の合計額。\*表示の価格は、メーカー希望小売価格(消費税込)で参考価格です。販売価格は、BMW正規ディーラーが独自に定めておりますので、お問い合わせください。\*価格には、税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用、付属品価格等は含まれません。\*リサイクル料金が別途必要となります。\*価格は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。\*掲載した写真は一部日本仕様と異なります。また、オプション装備等を含む場合があります。\*使用している写真は印刷物のため、実際の色合いと異なる場合があります。\*プロダクトに関する詳細はwww.bmw.co.jpおよびwww.bmw-i.jp、またはBMW正規ディーラーにてご確認ください。\*以上の内容は、予告なく変更、終了する場合がございます。\*記載の内容は2020年9月10日現在のものです。【お問い合わせ】BMW カスタマー・インタラクション・センター 0120-269-437 平日9:00am～7:00pm、土日祝9:00am～6:00pm 年中無休。